

京都女子大学図書館所蔵『社寺縁起由来』 目録稿

—— 卷子装略縁起集に綴った旅日記 ——

中 前 正 志
千 葉 郁 恵

一 京都女子大学図書館所蔵略縁起全書目

京都女子大学図書館が令和元年十二月時点で所蔵している略縁起集の類は、確認し得ている限りでは、次のA～Oである。ただし、AおよびM～Oは、ごく最近に一括されたものであるかもしれない。「略縁起集」とは言い難いものである可能性もあろうが、今はひとまず含めておくこととしたい。各記号の下の掲出書名は、図書館による整理書名（主に外題に拠っている）。「 」に入れられたのは、図書館によって仮に付された書名。書名の下（ ）内には、請求記号と資料IDを載せた。Aについては資料IDが、収蔵される略縁起一点ごとに付されているので、ここには掲げず、後掲目録に示した。形態・数量の下に記した合計点数は、それぞれが収蔵する略縁起の点数。なお、後述通り縁起あるいは縁起関係記事を全く載せないものもあり、厳密には「略縁起類」と言うべきかもしれないが、今は便宜上それらも含めて「略縁起」と称しておく。

1 A 『社寺縁起由来』（請求記号 I75.9/Sh11/1～62 資料ID 後掲） 整理保管箱一箱 計62点

- B 『尾州対馬社・吉備大臣・牛馬隱徳講・加嶋富光寺・網嶋大長寺・壬生寺・京祈製婦・大仏・当麻寺・富士山・打出親王寺・山無間之鐘・同やいばのきじ・夜なき石・往生寺』(185.9/B47 1160026610) 袋綴一冊 計15点
- C 『法隆寺靈宝目録及図絵・隻袖事略・亀鉦略記・大念仏宝物録・如來出現縁記』(185.9/H89 1160026599) 袋綴一冊 計6点
- D 『拾略記・勝軍道明世尊橋寺法隆善通南都畧記』(185.9/J97 1160026653) 袋綴一冊 計7点
- E 『粉川寺縁起・堺大寺縁起・本願寺法事記・清涼寺縁起・勝尾寺縁起・深草西福寺草鞋御影・東福寺宝物・中山寺縁起・紀州根来寺縁起・開山上人御一生記・江州錦織寺縁起』(185.9/Ko41 1160026572) 袋綴一冊 計11点
- F 『撰州西宮荒恵戎酒神・信州善光寺・奥州仙台往生禪寺・撰州須磨寺・播州太山寺・筑後国善導寺・四国八十八ヶ所廻図・讃州金毘羅來詣順拜図畧縁記』(185.9/Se88 1160026629) 袋綴一冊 計9点
- G 『撰州如來院・撰州勝尾寺・城州月輪寺・撰州昆陽寺・紀州大川報恩講寺・城州浄華院・城州伏見源空寺・比叡山黒谷円光大師御鏡御影・城州宇治平等院略縁起』(185.9/Se88 1160026637) 袋綴一冊 計10点
- H 『四天王寺縁記・箕面山縁記・泉涌寺縁記・東大寺縁起・大阪阿弥陀池縁記・摩耶夫人縁記・同天上寺縁記・熊谷蓮生法師縁記・山庄大夫縁記・扶桑木畧木・宝物附』(185.9/Sh92 1160026645) 袋綴合一冊 計10点
外題墨書 一枚物を反故紙に貼付して綴じている場合もあり。
- I 『諸方寺塔万草記』(185.9/Sh95 1160026602) 袋綴合一冊 計13点
- J 『諸寺院縁起集 全』(185.9/Sh96 1160026564) 袋綴合一冊 計19点
- K 『諸寺縁起集 完』(185.9/Sh96 1160026661) 袋綴合一冊 計8点
- L 『象頭山什物録・但馬国おなつ物語・鎌倉名所記・永観堂顧本尊略縁起・善通寺略記・金沢八景堂内子・有馬温泉

由来記』(185.9/Z5 1160026580) 袋綴一冊 計8点

M 『[社寺縁起物]』(188.55/Sh11 1080048952) クリアブック大小二冊入り整理保管箱一箱 計48点

N 『[社寺縁起物]』(188.55/Sh11/1.2 1090045549,1090045557) クリアファイル二冊 計87点

O 『[社寺縁起書五種]』(188.55/Sh11 1100002472) 仮綴本五冊新帙に一括収蔵 計5点

右のうち、M以外は、京都女子大学図書館のOPACにおいて、収蔵される略縁起の書目をすべて確認することができる。それができないMについては、収蔵される計四十八点の書目を以下に掲げておく。番号の下の掲出書名は、整理保管箱内のリストに載せられた図書館による整理書名(冊子の場合主に外題に拠る)を尊重しつつ、必要に応じて修正を加えたもの。「□」に入れたのは、仮題。判読できなかった文字は□で示した。②⑫のみ写本、他は刊本である。

① 毫撰寺畧縁起(仮綴一冊、全三丁、明治二十九年刊、末に「勅願所 越前清水頭／毫撰寺」)

② 大宝八幡社の□□記(近代野紙仮綴写本一冊、全十三丁、別野紙一枚挿入、明治十九年?写、茨城県下妻市)

③ 源義家公御守本尊 大日如来略縁起(仮綴一冊、全四丁、明治二十二年刊、内題「鏝阿寺略縁起」)

④ 成田山大縁起(大和綴一冊、全十七丁、明治二十四年刊、新宮沖之助著作兼発行)

⑤ 関東一宮神明宮御由来略記(仮綴一冊、全三丁)

⑥ 「性信上人畧伝」(仮綴一冊、全五丁、表紙欠、柱題「性信上人畧伝」、末に「関東廿四輩第一江戸高龍山報恩寺」)

⑦ 高祖大菩薩御感徳 足利尊氏公御開運御守本尊 北辰妙見大菩薩畧縁(仮綴一冊、全五丁、表紙左下に「東都白金台 妙

円寺」、末に「誠瀧山二十五世／智現院／日寿」)

⑧ 靈眷講人名簿(仮綴一冊、全四丁、内題「靈驗主旨記」、表紙左下に「釜伏山社務所」、末に「武蔵国秩父郡釜伏山社務所」、末尾の世話人名簿部分は墨書)

- ⑨〈遠州小夜中山／夜啼之石／孕婦男子音八〉敵討之由来 全 上
 〈遠州小夜中山／無間之鐘／川井宗仲〉大沢兵庫之由来 全 中
 〈遠州小夜中山／化鳥刃之雉子／上杉三位卿〉退治之由来 全 下
 (仮綴各二丁合綴)
- ⑩竹生嶋御法会中 龍燈御咄書(大和綴一冊、全六丁、末尾近くに「弘化二年巳五月 鳩居堂蓮心」)
- ⑪長谷寺縁起 上・下(大和綴二冊、上巻十四丁・下巻十二丁、表紙欠、挿絵七面)
- ⑫靈山社由来記(仮綴写本一冊、全八丁、本文中に「明治十八年」)
- ⑬〈伊賀越敵討／実録畧記〉繪本童偽寄(大和綴一冊、全八丁、挿絵三面、末に「寛永十二年十一月七日印刷同年同月二十一日發行」、鍵屋甚兵衛著作兼發行、表紙左に朱書「昭和三年十月廿四日遊覽の時／旧蹟鍵屋^三而之を求む」)
- ⑭信濃国上水内郡西長野町 刈萱堂往生寺略縁起(仮綴一冊、全四丁、内題「信濃国刈萱往生寺畧縁起」)
- ⑮〈信州筑摩郡／木曾上松駅〉寢覚浦島太郎略縁記(仮綴一冊、全八丁、宝曆六年改板、内題「寢覚浦島寺畧縁起」、末に「京妙心寺末寺 寢覚山臨川寺」、末に「在原寺靈宝畧縁記」(二丁、後欠)を合綴)
- ⑯「高野の仇討ち由来」(仮綴一冊、全四丁、前半二丁は絵のみ、末に黒印「明治十三年辰九月御届」)「和歌山県平民出版人 田中鶴之助 紀伊国伊都郡西郷村百二番地」)
- ⑰〈西国十六番札所／山城国愛宕郡〉音羽山清水寺縁起^并堂塔社祠細記(仮綴一冊、全五丁、明治二年刊)
- ⑱錦織寺(本尊阿弥陀如来／開山聖人自画満足御影／同聖人靈夢毘沙門天王)略縁起(大和綴一冊、全八丁)
- ⑲太閤秀吉教経(仮綴一冊、全四丁、内題下に「高野山改弘屋山奥院行者清水帯弘作」)
- ⑳松の略記(仮綴一冊、全三丁、文政二年再板、表紙左下に「墨乃江 浪花家」)
- ㉑須磨浦古跡記(仮綴一冊、全四丁、「磯馴味噌」以下の項目を列挙して記述)

- ②② 錦屏山瑞泉寺一覽亭並記（大和綴一冊、全六丁、末に「寛政丙辰秋八月 東都鴻井勝軼識」、寛政八年）
 （以上、クリアブック小）
- ②③ 秩父三拾四ヶ所觀音縁記（長尺一枚刷）
- ②④ 畧縁記（一枚刷、明治十五年刊、末に「越後高田 性宗寺幹事」）
- ②⑤ 簾阿弥陀如来略縁起（一枚刷、末に「越後国高田 中戸山西光院常敬寺役者」）
- ②⑥ 五智如来御胎籠畧縁記（一枚刷、末に「越後州頭城郡安国山国分寺」）
- ②⑦ 中将姫由来畧縁起（一枚刷）
- ②⑧ 當麻寺案内略縁起（一枚刷、②⑦と一具）
- ②⑨ 〈真言／根本〉大和閉高市郡靈禪山久米寺畧記（一枚刷、明治十六年再刻）
- ③⑩ 和州石光寺染寺縁起（一枚刷）
- ③⑪ 和州片岡山達磨禪寺畧縁起（一枚刷、末に「永享三辛亥三月」）
- ③⑫ 多武峯畧縁記（一枚刷）
- ③⑬ 勅願所 柿本社略縁起（一枚刷、内題下に「別当 月照寺」）
- ③⑭ 「黄檗山萬福寺縁起」（内題等ナシ、末に「宇治黄檗山門前 大田多兵衛版」）
- ③⑮ 山城州慧日山東福禪寺（一枚刷）
- ③⑯ 山城州葛野郡北山鹿苑禪寺之畧記（一枚刷、天明年間刊）
- ③⑰ 〈日吉神社／撰社〉唐崎神社靈松縁起（一枚刷、末に「唐崎神社 御供所朱印」）
- ③⑱ 尾上のかね由来（一枚刷、末尾に「但し名物鐘摺 扇子 半切 短冊 色紙 手塩 渡紙すり」）

- ③9 石山寺由来略縁起（一枚刷、右下に印「藤懸所蔵」墨書「藤懸所持」）
- ④0 西国第二番札所紀三井寺略縁起（一枚刷）
- ④1 丹後喜礼渡文殊天橋立畧縁起（一枚刷）
- ④2 播州石宝殿畧縁起（一枚刷）
- ④3 播磨国石宝殿略記（一枚刷）
- ④4 手枕松之記（一枚刷、明治五年刊、播州別府住吉神社の手枕の松）
- ④5 紀州日高郡道成寺御建立畧縁起（一枚刷二枚、一枚は掲出書名を内題とし、もう一枚には内題などなく、匡郭外上欄に「紀伊国日高郡」、同下欄に「天音山道成寺」。両者一具のものか。長らく一緒に保管されていたことは確か）
- ④6 摂州須磨寺略縁起（一枚刷）
- ④7 摂州兵庫築嶋寺畧縁起（一枚刷、弘化三年刊）
- ④8 御影略縁起（一枚刷、末に「越前国吉崎山 西念寺」、蓮如の「御辛勞の御影」あるいは「御鬚の御影」
- 〈以上、クリアブック大〉
- 右に掲げた略縁起集A～Oとは別に、略縁起が一点ずつ単独で所蔵されている場合がある。現時点で確認し得ているものは、次の通り。
- (1) 蚕影山畧縁起（請求記号 I75.931/Ko41 資料 I D 1110062826） 仮綴一冊・全六丁
- (2) 蚕影山畧縁起（I75.931/Ko41 1110062834） 仮綴一冊・全六丁
- (3) 江之嶋大縁起五卷畧記 宋朝伝来古碑畧図（I75.937/E63 1110062710） 仮綴一冊・全四丁
- (4) 塩通山医王院水薬師寺略縁起（I85.9162/E63 1100017895） 一枚刷

- (5) 西国第一番札所那智山畧縁起 (188.45/N12 1110062702) 仮綴一冊・全七丁
- (6) 橘寺畧縁起 (188.45/Ta13 1110062672) 仮綴一冊・全十丁 宝永元年刊
- (7) 善光寺如来略縁起 (188.45/Z3 1110062699) 仮綴一冊・全六丁 葛屋伴五郎刊
- (8) 醍醐寺由来記 准胝仏母縁起 (188.55/D17 1110062664) 仮綴一冊・全十四丁
- (9) 嫁威肉附面畧縁起 (188.74/Y81 1970093382) 仮綴一冊・全五丁 吉崎元慶寺発行
- (10) 豊山神楽院長谷寺畧縁起 (188.85/G34 1110062877) 仮綴一冊・全五丁 享和元年刊
- (11) 寢覚浦島寺縁起 (188.85/N69 1110062770) 仮綴一冊・全四丁
- (12) 蘇鉄略縁起 (188.95/Se88 1110062842) 仮綴一冊・全四丁 堺・妙国寺
- (13) 蘇鉄略縁起 (188.95/Se88 1110062850) 仮綴一冊・全四丁 堺・妙国寺
- (14) 東山西山京名所案内記 (291.62/H55 1068002280) 仮綴一冊・全四丁 寛政新板 赤井長兵衛板
- (15) 「方広寺大仏像造立木組之真図」(718.9/H82 1060020920) 一枚刷 大仏殿御絵図所 嘉永元年
- (16) 京都大仏殿釈迦牟尼如来大像 (781.9/Ky6 1080037950) 一枚刷 大仏殿勸化所 天保十四年
- 先に掲げた略縁起集A～OのうちM以外はOPACにて書目を確認し得るので、それらに、右に掲げたMの書目①～④および単独所蔵分(1)～(16)を加えれば、京都女子大学図書館が所蔵している略縁起の全書目ということになる。先の略縁起集に含まれるのが合計三百十八点で、それに右十六点を加えれば、三百三十四点に及ぶ。略縁起集に収蔵されたものを中心とするこれら略縁起の点数あるいは略縁起集の点数は、一施設が所蔵する点数としては、かなり多いのではないかと思われる。所蔵の略縁起集に収蔵される略縁起の点数について言えば、例えば中野猛氏著・山崎裕人氏・久野俊彦氏編『略縁起集の世界 論考と全目録』(森話社、平24)において調査対象とされている二十三施設と見比べるに、

国立国会図書館六百六十七点・東北大学附属図書館五百三十一一点に次ぐ多さである。比較的最近に購入されたものがほとんどのもので、だから当然、右の『略縁起集の世界 論考と全目録』における調査対象になってもいいのだが、今や略縁起の研究にとって看過し得ない一つの資料群が形成されている、と言っても過言ではないだろうか。

二 A 『社寺縁起由来』 目録稿

小稿においては、先に掲げた略縁起集のうちA『社寺縁起由来』を取り上げ、それが収蔵する略縁起について、OPACに掲載されるような簡略な書目ではなく、今少し詳細に検討した目録を、次に掲げておきたい。収蔵される六十二点は、ほとんど一枚物の刊本。江戸後期あるいは末期のものが多く、明治期のものも含んでいる。

《凡例》

- ・ 図書館において全六十二点に番号が付されている。その番号の順に配列した。なお、同番号は請求記号の末尾の番号と対応し、例えば1の場合、1759/Sh1/1が請求記号となる。
- ・ 番号と共に掲げた書名は、図書館整理書名。それが内題等と一致している場合は、その下に「(=内題)」などと記した。図書館整理書名と異なる内題等が見られる場合など、その旨を()内に注記した。「」に入れられた書名は、図書館による仮の書名。なお、図書館整理書名を掲げるのに、表記のあり方を若干変更した場合がある。
- ・ 右の書名などの下に資料IDを掲げた。さらに、Aが収蔵する六十二点すべての写真を後に掲げたが、資料IDの下には、写真掲載頁を〈写真 頁〉という形で示した。
- ・ 書名などを掲げたあと、その左にはa～fの項目を設定して、それぞれ以下のことを記述した。

- ・ a には、形態／寸法（冊子の場合には表紙の寸法）／匡郭／縁起記事および絵の有無について、記した。「縁起記事および絵の有無」については、縁起あるいは縁起関係の記事を掲載しているものは「○」、それに絵を伴うもの、あるいは中心である絵にそうした記事を伴うものは「◎」、関係する和歌や樹木の寸法についての記載はあっても、縁起関係記事を含むことのない、絵が中心となっているものは「●」と分類して、縁起記事と絵のあり方を示した。
- ・ b には、刊年もしくは書写年が明らかでない場合、それを示した。ただし、必ずしも明らかとは言えない場合も含んでいくかもしれない。
- ・ c には、奥書や刊記の類を、その所在位置とともに掲げた。
- ・ d には、種々の書込を掲げた。文字でなく記号類の書込についても記した場合がある。
- ・ e は、内容などについての覚書。飽くまで覚書であって、精査を経たものというわけではない。
- ・ f には、京都女子大学図書館の所蔵する他の略縁起集および他機関が所蔵する略縁起集に、同一の略縁起が収載されている場合、その略縁起集を列挙した。ただし、判明した場合のみであって、網羅的に探索した結果ではなく、実物によって確認し得ていない場合も少なくないので、同一でないものを含んでいくかもしれない。京都女子大学図書館所蔵略縁起集に同一のものが所蔵されている場合、前節に挙げた記号や番号を用いて、「京女図M⑩」「京女図N」などと示した。先掲『略縁起集の世界 論考と全目録』に目録が収載されているものについては、そこに示された個別の番号も、略縁起集名とともに示しておいた。まずそれらを列挙し、それら以外のものについては、*を付したあとに記載した。『略縁起集の世界 論考と全目録』に収載されていない岩瀬文庫蔵本の場合は、基本的に同文庫古典籍書誌データベースに基づいている。また、単独で所蔵されている略縁起について記述した場合もあるし、関係する他の略縁起についての覚書などを加えた場合もある。

・記載事項のない項目については、その項目自体を消去した。例えば、項目b自体がない場合は、刊年あるいは書写年が知られないこと、項目cやdがない場合は、奥書や刊記の類、また書込がないことを、それぞれ意味する。

・本文引用に際しては、基本的に通行字体に改めるなどしているし、振り仮名を省略した場合もある。判読不能文字は□で示した。

1 小石川白山境内旗桜之由来（＝内題） 1120043387 〈写真68・69頁〉

a 一枚刷／縦三五・五×横四八・〇cm／無辺／◎

d 左上角に、朱筆による○印の断片あり。

e 文京区白山神社境内。奥州攻めの際、八幡太郎義家が梢に旗を立てて士卒に下知したこと、「今いまにいたるまで葩はなづらの匂ほひより姿すがた様旗さまはたに似にたるもの、出る」こと、など。桜の樹の絵の右下に花弁の拡大図を載せ、「葩はなづらノニホイ／下ゴトシ」と記す。桜の寸法注記などあり。

2 「明王山宝仙寺略縁起」（内題「略縁記」、c参照） 1120043395 〈写真44頁〉

a 一枚刷／縦二九・五×横一二・七cm／四周单辺／◎

b 天保十三年（一八四二）

c 末に「天保十三壬寅寅四月十五日改」「武州多摩郡／中野郷／明王山宝仙寺」。

e 宝仙寺の什物という井の頭池の蛇骨をめぐる縁起。蛇が首を鎌で斬られた場面の絵を、下半分に画く。宝仙寺は、中野区中央に所在する真言宗寺院。御府内八十八所第十二番札所。

3 奥州金華山畧縁起（＝内題） 1120043409 〈写真68・69頁〉

- a 一枚刷／縦三一・七×横四二・三cm／無辺／○
- d 内題下に朱書「□□年中江戸^ニ開帳□□」（文字の右半分欠）。また、破損による不明箇所あり。末に朱書「慶応元
丑歳六月両国回向院^ニ開帳」。内題上方に朱筆指示線。
- e 富主姫太神すなわち弁財天女が天降り鎮座したこと、東大寺大仏造立に際して当山より黄金を出したこと、など。
末尾部に「弁才天御神宝」を列挙。
- f 天理大学付属天理図書館蔵『寺社縁起集』第十三冊109 特例財団法人無窮会東洋文化研究所蔵『奥州金華山縁起
外十四種』1 国立歴史民俗博物館蔵『諸国縁起由来記』6 *国立国会図書館蔵『諸国寺社諸縁起』第十一冊収
載『奥州金華山略縁起』（中野猛氏編『略縁起集成』（勉誠社）第四巻に翻刻収載）とは異なる。
- 4 牛石池之図（＝内題） 1120043417 〈写真70・71頁〉
- a 一枚刷／縦二九・九×横三六・七cm／四周単辺／◎
- c 末に「奥州一宮塩竈御釜町」。
- d 末尾部に朱書「嘉永元甲歳七月九日十日折能／大祭礼^ニ参詣夫より松嶋見物ス」。
- e 塩竈の神が食塩を人民に施した際に使役していた牛が石と化した、その牛石の由来と靈験。
- 5 牛石池之図（＝内題） 1120043425 〈写真44頁〉
- a 一枚刷／縦二八・八×横四二・五cm／四周単辺／◎
- e 本文は、4と同文。ただし、行送りのあり方などは異なり、また、4の末にある「奥州一宮塩竈御釜町」（c）は
ない。絵も4と同様だが、4にない藤が左上に画かれている点、目に付く相違である。
- 6 観谷山聖輪寺観音略縁起（＝内題） 1120043433 〈写真70・71頁〉

- a 一枚刷／縦二四・四×横三四・〇cm／無辺／〇
- d 右端に朱書「青山千駄ヶ谷 御府内之仏閣^三而千二百余年」。「青山千駄ヶ谷」の下から内題冒頭へと朱筆による繋ぎ線が引かれている。左端に朱書「弘化二已歳正月廿四日昼八ッ時大風^三而青山鼠穴^三」。
- e 夢告を受けて行基が彫造したという本尊如意輪観音像の由来と靈験など。聖輪寺は、渋谷区千駄ヶ谷に所在する真言宗寺院。御府内八十八所第十番札所。
- f 国立国会図書館蔵「諸国寺社諸縁起」第二冊14（先掲『略縁起集成』第三卷に翻刻収載）同『寺社書上』76
- 7 祖師聖人御旧跡三度栗略絵図（＝内題） 1120043441 〈写真45頁〉
- a 一枚刷／縦四八・〇×横三八・五cm／無辺／●
- c 末に「焼栗山孝順寺印」。
- e 栗の木と石碑「南無阿弥陀仏」の絵、および御詠歌「一年に三度御法をかよわせてこゝろ保田にのこすやきくり」。「孝順寺」（c）は、新潟県阿賀野市保田に所在する真宗寺院。三度栗は、越後七不思議の一。
- f 京女図N *西尾市岩瀬文庫にも所蔵され、同文庫蔵『親鸞聖人越後旧跡略縁起』にも収載されている。また、『越後蒲原郡保田之郷 孝順寺靈宝旧跡畧縁起』（築瀬一雄氏編『社寺縁起の研究』〈勉誠社、平10〉に翻刻収載）あり。
- 8 天拝一光三尊如来縁起（＝内題） 1120043450 〈写真72・73頁〉
- a 一枚刷／縦三一・八×横四一・四cm／無辺／〇
- d 下端左に、朱筆〇印・朱筆指示線とともに、朱書「下野国芳賀郡」（左端欠）。末尾余白に墨書「天保十四年五月廿一日より廿七日迄^{浅草}唯念寺／同六月朔日より七日迄^{当地}澄泉寺／同月十一日より十七日迄^{浅草}称念寺」。
- e 栃木県真岡市に所在する高田山専修寺の本尊・一光三尊阿弥陀如来の縁起。

- f* 『天拝一光三尊仏畧縁記』（明治大学博物館蔵『諸寺略縁記』収載写本など）。中野猛氏「真宗と略縁起」（先掲『略縁起集の世界 論考と全目録』収載）に言及あり。
- 9 紀州日高郡道成寺御建立畧縁起（Ⅱ内題） 1120043468 〈写真72・73・82頁〉
- a 一枚刷／縦三五・五×横四八・五cm／四周单边／○
- d 匡郭外右端に朱書「弘化三丙午歳六月十三日参詣致候其節頭書」。同左端に「弘化三丙午歳六月此かね拝頭書」。同上端に、朱筆○印・朱筆指示線とともに、朱書「当山マテ安珍きよ姫之由来絵巻物開帳ス言立国なまりニテ余程おもしろし／日高川より直道向あたり小高き御寺石段あり右側ニ鐘堂あり是より／徳本上人御出生所壱り半」。
- f 神宮文庫蔵『諸寺略縁起』13 * 矢代和夫氏・宮本瑞夫氏・志村有弘氏編『略縁起集』（宮本記念財団、平2）に翻刻（和田恭幸氏）あり。
- 10 「紀伊国日高郡天音山道成寺縁起」（c参照） 1120043476 〈写真45頁〉
- a 一枚刷／縦二四・三×横三四・五cm／四周单边／◎
- c 匡郭外右端に「紀伊国日高郡」、左端に「天音山道成寺」。
- e 「当寺開闢」と「鐘巻由来」。後者について、清姫の和歌と安珍の返歌各一首および二人の対面場面の絵を載せる。
- f * 都立中央図書館所蔵蜂谷文庫『縁起叢書』第十二冊に収載されるもの（先掲『略縁起集成』第二巻に翻刻・影印収載。同書解説は、『紀伊国日高郡吉田村鐘巻道成寺縁起』の「付録か」とする）と同文だが、絵が若干異なる。
- 11 「志州堅神観音寺波切松図」（内題「波切松」、c参照） 1120043484 〈写真74・75頁〉
- a 一枚刷／縦三五・五×横四八・七cm／无边／●
- c 末に「志州堅神／観音寺」。

- d 左上に朱書「竹川町新兵衛殿同道_三而／伊勢參宮其節志州渡羽／日和山其外見物帰路_三此絵図／求」。
- e 内題下に松の寸法注記あり。堅神観音寺は、現鳥羽市堅神町に所在する真言宗寺院。
- 12 摂州布引山瀧勝寺畧縁起（＝内題） 1120043192 〈写真46頁〉
- a 一枚刷／縦二四・五×横三三・〇cm／無辺／○
- e 布引の滝の水面上に出現した馬頭観音を、自ら彫刻した像の胸中に納めた、といった役行者による開基伝承など。
- f 中野猛氏収集略縁起504・505 * 西尾市岩瀬文庫蔵『摂州布引瀧図』に付属するものには、12と違い匡郭あり。
- 13 石山寺源氏間紫式部影讚（e参照） 1120043306 〈写真74・75頁〉
- a 一枚刷／縦三二・〇×横四二・〇cm／無辺／●
- d 内題上方に朱筆指示線あり。その下方に朱書文字の断片が散見する。内題下に朱書「丸屋六右衛門泊_リ名産うなぎ／蒲焼大平へ入出_ス其外なまず／風味よろしくぞ」。
- e 「石山寺源氏間紫式部影讚」および「紫式部所持源氏物語書写硯世謂石山形硯」の絵。前者には、讚のほか式部の「ころだに」歌・「誰か世に」歌を掲載。硯の寸法注記あり。
- f 神宮文庫蔵『諸社寺縁起並地図帳』2 * 西尾市岩瀬文庫蔵『石山寺名所之図』などにも付載。
- 14 石山寺由来畧縁起（＝内題） 1120043514 〈写真46頁〉
- a 一枚刷／縦三二・〇×横四二・七cm／四周単辺／○
- e 石山寺の由来を記述したあと、一行分の空白を挟んで、同寺での紫式部の源氏物語執筆について記す。
- f 京女図N 東洋大学附属図書館蔵『寺社略縁起集』1
- 15 摂州有馬湯元温泉寺薬師如来畧縁起（＝内題） 1120043522 〈写真76・77頁〉

- a 一枚刷／縦三一・三×横四一・〇cm／無辺／○
 c 末に「温泉寺藏板」。
- d 右端上に朱筆指示線あり、その下方に朱書「弘化三丙午歳六月廿八日ヨリ七月二日迄□留ス。此所より八丁_三面／つ、みがたきあり」(二行目右半分欠)。左端に朱筆○印に続いて朱書「嘉永元甲歳七月十四日参詣ス是より十八里程大海。渡之波へ乗ル」。
- e 行基による開基など。
- 16 「日蓮宗妙法寺加藤清正手植之松図」(内題「加藤清正手植之松」、c 参照) 1120043530 〈写真47頁〉
 a 一枚刷／縦三七・七×横五一・八cm／無辺／●
 c 右下に「大阪谷町筋八丁目／日蓮宗妙法寺印」印。左下に「有楽館箕山写印」印。
 e 「世にひろくとけはた多なる法とともにさかへむ庭の松そ木たかき 従一位資枝讚」と、日野資枝(一八〇一)の歌を添える。松の寸法注記あり。「妙法寺」は、大阪市中央区谷町に所在する法華宗(本門流)寺院。
- 17 「三井寺霊鐘之図」(内題「三井寺霊鐘」) 1120043549 〈写真76・77頁〉
 a 一枚刷／縦三五・三×横二三・七cm／四周单辺(一部双辺)／●
 d 匡郭外上端に朱書「弘化三年六月参詣ス其節頭書／当処より日高川一り程有り是より一り半程_二て／徳本上人出生地有り」。
- e 弁慶引摺鐘の絵。鐘の寸法注記あり。
- f *西尾市岩瀬文庫蔵『日本諸国絵図面』『海道名勝画卷』などに収載。他に、『三井寺霊鐘縁起』(西尾市岩瀬文庫蔵、先掲『社寺縁起の研究』に翻刻収載)。

18 「三井寺弁慶汁鍋図」(内題「三井寺弁慶汁鍋」) 1120043557 〈写真47頁〉

a 一枚刷／縦三三・〇×横二四・〇cm／四周单边(一部双边)／●
c 匡郭外左下に「園城寺藏」。同右下に黒印「和田／安部喜壽」。

d 匡郭外右端に墨書「明治四十二年四月一日江州大津／三井寺ニテ受ケ」、裏面に墨書「弁慶汁鍋」(上記書込と同筆か)。
e 「奥ノ院／食堂ニ安置ス」と記載。現在は、17の弁慶引摺鐘とともに霊鐘堂に安置されている。本来は17と一具のものでらう。ただ、17が弘化三年時点のものであるのに対して、18は明治以降の後刷りか。鍋の寸法注記あり。

19 三井寺鐘由来(＝内題) 1120043565 〈写真78・79頁〉

a 一枚刷／縦一六・三×横五七・〇cm／四周单边／◎

c 末に「矢守板」。

d 匡郭外左端に朱書「天保九戊歳予十九歳之節／始^而上方見物ス」。

e 弁慶引摺鐘(＝17)の由来。右半分に、鐘を背負い比叡山無動寺へ引き摺り上げる弁慶の絵。

f 京女図N * 西尾市岩瀬文庫蔵『日本諸国絵図面』に収載。

20 「臥龍松図」(内題「臥龍松」) 1120043573 〈写真48頁〉

a 一枚刷／縦三三・〇×横五二・〇cm／无边／●

c 「羽州谷地／大原宝田村／高谷長四郎」(左端中央)。

e 右上に「四方八方に松の其名の高谷氏千代経る家の庭に榮へて」(「青柳亭下枝」)。松の寸法注記あり。右端上部・左端上部・左端下部、破損。山形県村山市にあり、「長四郎の松」とも。県指定天然記念物。「高谷長四郎」(c)は、享保十九年(一七一九)に谷地町から来て大原地区を開拓、宝田村の庄屋となった人物という。

- 21 「播磨明石柿本人丸神社境内盲杖桜図」(内題「播磨明石柿本人丸神社境内」、e 参照) 1120043581 〈写真48頁〉
- a 一枚刷／縦三七・三×横三四・〇cm／無辺／◎
- e 桜の傍らに「盲杖桜」碑を画く。「盲杖桜」の絵と由来。人丸神社に詣でた盲人の両眼が開いたため不要となって捨てた杖が桜になる。
- 22 「親鸞聖人御旧跡数珠掛桜図」(c 参照) 1120043590 〈写真49頁〉
- a 一枚刷／縦二七・二×横三九・一cm／無辺／●
- c 末に「親鸞聖人御旧跡数珠掛桜／越之后州蒲原郡小島村」。左下に「藤原墨浄画印」。
- e 右上に拡大図「桜花写真」。阿賀野市小島の梅護寺にあり。越後七不思議の一。花房が数珠の房のように垂れ下がって咲く。
- f * 西尾市岩瀬文庫蔵「親鸞聖人越後旧蹟略縁起」に収載。「御旧跡／珠数掛桜由来畧縁起」(先掲「社寺縁起の研究」に翻刻収載)あり。
- 23 「月輪寺時雨桜の図」(内題「時雨桜の図」、c 参照) 1120043603 〈写真49頁〉
- a 一枚刷／縦三一・二×横四二・五cm／無辺／◎
- c 内題下に「月輪寺」。
- e 親鸞配流の際、法然が兼実とともに植えたと伝える、京の愛宕山月輪寺の桜。名残を惜しんで時雨のように露を落としたという。
- f 京女図N * 石川透氏収集略縁起(先掲『遊楽と信仰の文化学』参照)。
- 24 人丸山船形之梅の記(=内題) 1120043611 〈写真50頁〉

- a 一枚刷／縦二九・四×横四二・二cm／無辺／◎
- b 享保十八年（一七三二）
- c 内題下に「温露軒写印」。末に「享保十八年癸丑春二月／赤石人丸山／月照寺」。
- e 21の盲杖桜と同じく明石の人丸神社にある、八房梅の由緒。梅の寸法注記あり。末に「船形の梅をよめる」歌。
- f 京女図N * 早稲田大学古籍データベースに写真掲載。
- 25 日吉神社撰社唐崎社靈松略縁起（＝内題） 1120043620 〈写真50頁〉
- a 一枚刷／縦二二・七×横三二・〇cm／四周単辺／○
- c 末に「官幣大社日吉神社／唐崎勤番所印（朱印「日吉社／務所出／張之印」）。
- e 靈松の由来と唐崎社の靈験。後半は、靈松の寸法と例祭の日程。
- f 京女図N 国立歴史民俗博物館蔵『諸国縁起由来記』19
- 26 唐崎大明神一ツ松之図（＝内題） 1120043638 〈写真51頁〉
- a 一枚刷／縦三一・一×横四四・一cm／無辺／◎
- b 天保二年（一八三一）刊か。
- c 右下隅に「平安／白瑛謹（「写」欠か）」。
- e 内題の左に松の寸法注記あり。左上に松の由来に関する記事を掲載。琵琶湖と対岸の山々を奥に画く。四周がどの程度か切断されていると見られる。
- f * 早稲田大学古籍データベースに写真掲載（末に「天保二辛卯年孟夏新刻」―26にも同一の刊記あったか）。
- 27 江州唐崎一ツ松之図（＝内題） 1120043646 〈写真51頁〉

- a 一枚刷／縦三六・五×横五一・五cm／無辺／●
- c 左下に「湖南／荻野長平画／岩佐蔵／三国常栄堂刀」。
- e 内題の左に松の寸法注記あり。左上に「比叡山京鞍馬道法記」。
- f *西尾市岩瀬文庫蔵『日本諸国絵図面』に収載。国文学研究資料館蔵『江州唐崎一ツ松之図』とは同じでない。
- 28 住吉名所之笠松（＝内題） 1120043654 〈写真52頁〉
- a 一枚刷／縦三〇・五×横四五・八cm／無辺／●
- c 左下に「^{一丁}住吉御社より南なにはや」。
- e 内題下に松の寸法注記あり。松の絵の右上に「正三位津守国福」（一八〇〇～六八 住吉神社七十三代）の歌「栄えゆく千年の松の下かげにとる心も住吉の里」を載せ、左上に住吉踊りの絵を画く。
- 29 「住吉名所之笠松図」（c 参照） 1120043662 〈写真52頁〉
- a 一枚刷／縦二七・五×横三七・〇cm／無辺／●
- b 慶応元年（一八六五）再版
- c 左上に「右若樹之図」「慶応元丑年再版」。左下に「住吉なには屋」。
- e 右上に松の寸法注記あり。松の絵の上方に歌「浪花津のほそへのかわをおもふらんこゝにやとりし松の幾千代」。
- f 特例財団法人無窮会東洋文化研究所蔵『奥州金華山縁起 外十四種』16
- 30 「住吉名所之笠松図」（内題等ナシ、c 参照） 1120043670 〈写真53頁〉
- a 一枚刷／縦二七・四×横三六・五cm／無辺／●
- b 文久二年（一八六二）再版

- c 末に「文久二^{壬戌}年再板」。左下に「住吉なには屋」。
- e 右に松の寸法注記、末近くに「右ハ元文三戊午／春三月之間數也」。ただし、右端が切断されていて、寸法注記のうち高さ^と東西の長さについての記事が見えなくなっている。松の絵の上方に歌「誰にとかいけの心もおもふらむそこにやとれる松の千とせを」。
- f 特例財団法人無窮会東洋文化研究蔵『奥州金華山縁起 外十四種』17 龍谷大学図書館蔵『諸国寺院神社縁起集』26
* 西尾市岩瀬文庫蔵『海道名勝画卷』に嘉永三年刊本収載。
- 31 「住吉名所之笠松図」(内題等ナシ、c 参照) 1120043689 〈写真53頁〉
- a 一枚刷／縦二七・六×横四〇・七cm／無辺／●
- b 文政十三年(一八三〇)再版
- c 末に「文政十三^{寅庚}年再板」。左下に「住吉難波屋」。
- e 右に松の寸法注記、末近くに「右ハ元文三戊午／春三月之間數也」。松の絵の上方に歌「誰にとかいけの心もおもふらむそこにやとれる松の千とせを」あり。30と酷似する。28〜31はいずれも、住吉難波屋の庭にあった松。『諸国名所百景』のうちの一枚に「泉州堺なにわやの松」。
- f *京女図M②『松の略記』あり。
- 32 高砂社相生松畧記(=内題) 1120043697 〈写真54頁〉
- a 一枚刷／縦三六・八×横五〇・二cm／無辺／○
- c 末に「猶委しき事ハ方冊にあり是ハ其あらましを記して行人旅客の需に應するのみ」。
- e 高砂という地のこと、高砂社のことを記したあと、相生松の由来を叙述する。一夜に生じ、根元に尉・姥二神すな

わち伊弉諾・伊弉冉二神が出現したこと、秀吉による別所長治攻めの際、毛利の家臣が松を伐ったこと、など。

f 神宮文庫蔵『諸社寺縁起並地図帳』13 中野猛氏収集略縁起 518

33 播州高砂尾上相生古松之由来 (≡内題) 1120043700 〈写真54頁〉

a 一枚刷／縦三〇・五×横四六・五cm／無辺／◎

b 文政十二年(一八二九)

e 内題左上に朱印「日本瑞一」。雄松・雌松それぞれの寸法注記あり。雌松の方の末に「文政十二年迄／二百五十九年」。松の前に尉と姥を画く。本文「抑当社は唯一の神廟なり……より立かれとなり今の松はその実ばえなり」。神功皇后三韓征伐凱陣の時、諸神が集まり植えた松の実二粒が一夜のうちに大樹となったこと、秀吉の三木城(別所)攻めの際に軍兵が伐り取って以降立ち枯れたこと、など。

f 京女図N 神宮文庫蔵『諸社寺縁起並地図帳』12 * 西尾市岩瀬文庫蔵『日本諸国絵図面』などに収載。

34 高砂尾上社都恋しき片枝松之真図 (≡内題) 1120043719 〈写真55頁〉

a 一枚刷／縦三七・〇×横四九・三cm／無辺／◎

d 上端余白に墨書「播州高砂尾上境内」。

e 末尾部に「枝葉悉く東の方にさし広がり西方にはみださず誠にくしびなる神木なり」。その前に松の寸法注記あり。
f * 岐阜県歴史資料館・林周教氏蒐集文書に所蔵される同名のもの(90社寺・文教90-209)は、明治二十六年刊と知られるらしく、34とは異なるものか。

35 高砂社相生霊松之図 (≡内題) 1120043727 〈写真55頁〉

a 一枚刷／縦二六・五×横四〇・七cm／無辺／●

- e 内題と松の絵のみ。全体的に印刷状態不良。
- 36 高砂社相生霊松之図（＝内題） 1120043735 〈写真56頁〉
- a 一枚刷／縦三六・五×横五〇・〇cm／無辺／●
- e 内題と松の絵のみ。内題の配置も含めて、35とほとんど同じ。前後関係等不明。
- f *西尾市岩瀬文庫蔵『日本諸国絵図面』『海道名勝画卷』などに35・36と同名本収載。
- 37 謡曲名所高砂神社相生霊松之図（＝内題） 1120043743 〈写真56頁〉
- a 一枚刷／縦三七・二×横四八・七cm／無辺／●
- d 右上に墨書「播州高砂社」（34 dの書込と同筆）。
- e 内題と松の絵のみ。立札「日本瑞一／相生霊松／うたひの名所」を画き込む。33に朱印「日本瑞一」あり（e）。
- 38 高砂尾上神社相生霊松真図（＝内題） 1120043751 〈写真57頁〉
- a 一枚刷／縦三六・一×横四六・七cm／無辺／◎
- e 本文に「……即ちこれを称して日本瑞一三代目相生の松といふ但しいにしへの枯木は質かたく今や化石となりて社務所に蔵せり」。立札「日本瑞一三代目／相生霊松／うたひの名所」を画き込む。「日本瑞一」について、33・37の
e 参照。
- 39 高砂尾上相生古松之由来（＝内題） 1120043760 〈写真57頁〉
- a 一枚刷／縦三六・九×横四九・二cm／無辺／◎
- d 内題下に墨書「高砂尾上社殿備品ナリ」（34・37のdの書込と同筆）。
- e 松の株の絵。左右に分かれたうち、右に「陰」、左に「陽」と記載。雄松・雌松各々の寸法注記あり。本文「抑当

社は唯一の神廟なり……より立かれとなり今の松三代目相生の松なり」は、末尾部を除いて33と同文。33と違って振り仮名はないが、行送りのあり方も同一。また、内題と本文と絵と寸法注記の位置関係も、33に近い。

40尾上のかね由来（＝内題） 1120043778 〈写真78・79・82頁〉

a 一枚刷／縦三五・五×横四二・八cm／無辺／◎

c 末尾に「^{但し}名物鐘摺 扇子 半切 短冊 色紙 手塩 渡紙すり」。

d 上端に朱書「文久元西歳／十二月十一日長崎／帰路^ニ三度目参詣」。同じく上端、上記書込の左に朱書「誠に希代之鐘^ニ而／此世界之品には／不被思第老名号／其外□文字少しも／無し」。鐘の絵の龍頭辺りを指して朱書「参銭入ル下へ落ル」。右端中央にも朱書文字の断片が見える。

e 中央に鐘の絵、その前後などに本文。鐘の寸法注記あり。

f 京女図M³⁸ 神宮文庫蔵『諸社寺縁起並地図帳』11 東洋大学附属図書館蔵『寺社縁起由来記』87 西尾市岩瀬文

庫蔵『諸国絵図面』国立歴史民俗博物館蔵『諸国縁起由来記』10 *先掲『略縁起集』に翻刻と一部影印収載。

41高砂尾上霊鐘之由来（内題「高砂尾上霊鐘の由来」） 1120043786 〈写真58頁〉

a 一枚刷／縦三九・五×横五五・〇cm／無辺／◎

b 明治二十六年（一八九三）

c 末に「版權所有／定価壹錢五厘 明治廿六年三月廿一日印刷／明治廿六年四月二日出版／兵庫県播磨国加古郡尾上村ノ内長田村尾上住吉神社祓／同県同国同郡尾上村ノ内長田村九十五番屋敷／発行者兼印刷者 好崎安義」。

d 右端に墨書「明治四十二年三月廿七日播州尾上ニテ受ケ」。その下に黒印「和田／安部喜壽」（＝18c）。裏面に墨書「尾上ノ鐘」（上記書込と同筆と見られる）。

e 40と同じく、中央に鐘の絵、その前後などに本文。本文末に「明治十八年天覽に供したる鐘」。鐘の寸法注記あり。
f 国立国会図書館蔵『張交帳』 14

42 播磨国曾禰靈松の由来（＝内題） 1120043794 〈写真58頁〉

a 一枚刷／縦三一・四×横四七・五cm／左右双辺／○

b 明治二十八年（一八九五）

e 本文に「……惜い哉寛政十年の秋靈松終ニ全く枯れ果てたり……此老樹の未だ枯れざる前天明元年の春其樹のもとに自ら実生の樹いて来て生たつこともいと早く爰に明治廿八年まで百十年余りニして既に千とせを経たる姿となり……遠き国々の人々にも告げて此神松の幸にあはしめんと絵に写し梓にちりはめ世に伝ふるになん」。「絵に写し」たものが付属していたようだが、紙質等から見ても、44あるいは43がそれに相当するか。道真手植とされる、高砂の曾根天満宮の「曾根の松」。43～46参照。

43 播磨国曾禰靈松後継之図（＝内題） 1120043808 〈写真59頁〉

a 一枚刷／縦三三・五×横四七・四cm／無辺／●

c 内題下に「再版寄進 入江亀太郎／入江辰次」（＝46c）。

e 後継松を中心に、その脇に「古靈松」（株のみ）が安置されているのも、画く。

44 曾禰古靈松の図（＝内題） 1120043816 〈写真59頁〉

a 一枚刷／縦三一・八×横四六・〇cm／無辺／●

e 内題と絵のみ。43に株のみ安置されたのを画く「古靈松」（e）に相当するか。

45 「播磨国曾禰菅公手植古靈松図」（内題）「播磨国曾禰菅公手植古靈松」 1120043824 〈写真60頁〉

- a 一枚刷／縦三四・一×横四六・九cm／◎
- e 松の絵以外に、歌「さかえよと植やおきけむいまもなをその世のまゝの神かきの松」と松の由来・来歴。
- 46 播磨国曾禰後継霊松真図（＝内題） 1120043832 〈写真60頁〉
- a 一枚刷／縦三四・〇×横四七・〇cm／無辺／●
- c 左下に「再版寄進 入江亀太郎／入江辰次」（＝43c）。
- e 松とともに立札「菅公手植／後継之霊松」を画く。松の寸法注記あり。
- 47 播州別府手枕霊松真図（＝内題） 1120043840 〈写真61頁〉
- a 一枚刷／縦三五・四×横四八・五cm／無辺／●
- e 左上に「富小路正三位貞直卿御詠／針間なる別府の／浦手枕の松を／おもひやりて／風ふけはこかけも／浪のあら磯に／たれかいをねし／手枕の松」。松の寸法注記あり。播州別府住吉神社の手枕の松。
- f * 西尾市岩瀬文庫蔵『日本諸国絵図面』に収載。石川透氏収集略縁起（23 f 参照）。
- 48 播磨国石宝殿畧記（＝内題） 1120043839 〈写真61頁〉
- a 一枚刷／縦三六・七×横四九・三cm／四周双辺／○
- b 明治二十七年（一八九四）
- c 匡郭外下端に「明治廿七年八月十七日印刷廿日出版 印刷発行者 播磨国印南郡阿弥陀村ノ内生石村生石神社社司 同郡米田村ノ内平津村七十一番邸東政□」とあり。
- e 大穴牟遲神と少毘古那神が一夜のうちに造ったことなど。末に「猶事長けれハ是に畧す委しきハ本記を見給ふへし」。
- f 京女図M④③ 東洋大学附属図書館蔵『寺社略縁起集』26 * 『播州石宝殿畧縁起』（先掲の『略縁起集成』第一巻

や『社寺縁起の研究』に翻刻収載、京女図M④②『播州石宝殿真景』（西尾市岩瀬文庫蔵『海道名勝画卷』に収載）などあり。

49 「臥龍松図」（e 参照） 1120043867 〈写真80・81頁〉

a 一枚刷／縦二五・〇×横六六・〇cm／無辺／●

b 文政九年（一八二六）

c 末に「文政九丙戌春三月改刻／松栄堂」。

d 右上に朱書「弘化三丙午歳六月廿五日／見物ス」。上記書込の左に朱書「備前国大内村之郷土／一井氏庭中ニ有リ」。左端に朱書「弘化三午歳五月廿五日より六月二日迄清水屋新助方ニ滞留ス／坂東三津五郎外大坂之中役者式人居合ス」。

e 左上に「臥龍松」として、松の寸法注記を載せる。岡山県和气郡香登村大内にあった松。

50 臥龍松之図（＝内題） 1120043875 〈写真62頁〉

a 一枚刷／縦二八・〇×横七二・五cm／無辺／◎

b 嘉永三年（一八五〇）

c 本文末に「嘉永庚戌秋九月／香門篤識印印／松翁四世之孫一井惟正改刻」。

e 右上に、「千種御殿／正三位有功」として「雲のうへに」歌を掲載。刊記（c）に見える「一井」について、49書

込（d）の「備前国大内村之郷土／一井氏」参照。「松翁」は、松を植栽したとされる人物。49と同じ松。

f *西尾市岩瀬文庫蔵『備陽国志』に収載。

51 近江国滋賀郡唐崎社靈松図（＝内題） 1120043883 〈写真62頁〉

- a 一枚刷／縦三四・五×横六三・八cm／無辺／●
- c 左下に朱印「授与之外／不許販売／日吉社務／所出張印」。
- e 内題と絵のみ。標柱「官幣大社日吉神社撰社唐崎神社」を画き込み、琵琶湖と対岸の山々を奥に画く。
- 52 「神照寺普門院旧跡天神之松図」〔内題等ナシ、e 参照〕 1120043891 〈写真63頁〉
- a 一枚刷／縦三〇・七×横四五・四cm／四周単辺／●
- e 右上に「讚州丸亀領豊田郡植田村七宝山神照寺普門院旧跡也」。左端に「天満宮アリ」「四国遍路道高札出申所より道法り四丁斗往還ヨリ壺丁」。松の寸法注記あり。匡郭外右端に「西」、左端に「東」、上端に「南」（下端は切断・破損のため確認不能）。ただし、右端など切断されていて、「西」の右半分は見えない。香川県観音寺市植田町に七宝山神照寺普門院あり、植田天満宮が隣接。道真手植という「植田松」あり。安藤家隆氏『植田松』（霊松保存会、昭2）参照。
- f *西尾市岩瀬文庫蔵『日本諸国絵図面』に収載。
- 53 「高野山両部曼荼羅由来」〔内題等ナシ、e 参照〕 1120043905 〈写真63頁〉
- a 一枚刷／縦二七・五×横四〇・二cm／四周単辺／○
- e 「高野山は両部曼荼羅の靈場。弘法大師禪定の勝地なり。ありがたき由来。不思議の因縁。具に記しがたし……」と始まるが、両部曼荼羅の由来は記述されていない。高野山での各日牌・月牌・茶牌・塔婆施入の勧め。本文末に「……参詣の人々施入の様子を知らず。国へ帰り後悔する者多きよし。依て其様子を知らせず、むる也」。
- 54 「源長寺由来」〔内題等ナシ、e 参照〕 1120043913 〈写真64頁〉
- a 一枚刷／縦二五・八×横三二・三cm／無辺／○

- c 末に「勢州三重郡宿野／無量山印」。
- e 「天照太神宮の御本地国府の弥陀試の尊像」の縁起など。「太平山無量寿寺」（補陀落山府南寺と合併し泰平山府南寺＝鈴鹿市、国府阿弥陀如来安置）安置の三体のうち一体を授与された、とする。長明寺を改号して源長寺と称したと記して、全体を結ぶ。三重県菟野町宿野に真宗大谷派の源長寺あり。
- f 中野猛氏収集略縁起378（「無量山源長寺略縁起」）
- 55 「親鸞聖人植髮尊像略縁起」（内題「（前欠か）略縁起」） 1120043921 〈写真64頁〉
- a 一枚刷／縦三三・四×横四七・四cm／無辺／○
- e 「抑親鸞聖人植髮尊像（おもしろんらんじゆうにかみせんぞう）の由来を尋奉るに……」とあり、親鸞が青蓮院で得度した旨などが記されている。冒頭部が破損しており、虫損が著しい。京都青蓮院に植髮堂あり。
- f *大谷大学図書館所蔵『神田家記録』（石橋義秀氏・菊池政和氏・橋本章彦氏『略縁起 資料と研究』3〈勉誠出版、平13〉に翻刻・影印・解説〈橋本氏〉収載）に収載。中野猛氏収集略縁起458？
- 56 「泉州堺広普山妙国寺蘇鉄図」（c 参照） 1120043930 〈写真65頁〉
- a 一枚刷／縦三九・〇×横五四・九cm／無辺／●
- b 明治二十五年（一八九二）
- c 絵の左上に「泉州堺広普山妙国寺」。末に「明治廿五年 月 日御届／同年同月同日印刷 大阪市南区安堂寺橋通 二丁目五十番屋敷／発行兼印刷者 小牧熊太郎」。絵の左下に「狩野眺山慎信写之印」。
- e 蘇鉄の姿形や寸法についての記述を、絵の右に掲げる。蘇鉄とともに「利休愛用スル所之燈籠」を画く。銅版印刷。堺市の広普山妙国寺にある大蘇鉄（国指定天然記念物）。信長が安土城に移植させた際に怪異現象が起こったとい

う伝説あり、月岡芳年『新形三十六怪撰』に「蘭丸蘇鉄之怪ヲ見ル図」収載。

f * 『撰泉堺妙国寺蘇鉄略縁起』（西尾市岩瀬文庫蔵『諸国寺社縁起』第七冊などに収載）。京女図(12)(13)参照。

57 『撰泉堺広普山妙国寺蘇鉄図』（c 参照） 1120043948 〈写真80・81頁〉

a 一枚刷／縦三五・七×横四八・八cm／無辺／●

c 末に「撰泉堺／広普山妙国寺」。絵の左下に「浪花／今来新之丞春延／写之印」。

d 右上に朱書「弘化三丙午上方見物三度目／其節此絵図求」。上記書込の上に、朱筆による○印の左半分および朱筆指示線あり。

e 蘇鉄の姿形や寸法についての記述（56、58のものとはほぼ同文）、右下にあり。

f 京女図N * 西尾市岩瀬文庫蔵『日本諸国絵図面』などに57あるいは58と同じものを収載。

58 『撰泉堺広普山妙国寺蘇鉄図』（c 参照） 1120043956 〈写真65頁〉

a 一枚刷／縦三〇・九×横四六・八cm／無辺／●

c 末に「撰泉堺／広普山妙国寺」。絵の左下に「浪花／今来新之丞春延／写之印」。

e 蘇鉄の姿形や寸法についての記述（56、57のものとはほぼ同文）、右下にあり。特に57と酷似するが、種々相違する面もある。前後関係不明。印象としては58が先か。

59 天神縁起（外題「天神縁記」） 1120043964 〈写真66頁〉

a 大和綴一冊・全二十一丁（遊紙なし）／縦二三・五×横一五・五cm／無辺／○

b 享保十五年（一七三〇）写

c 末に「享保十五戊龍集次卯月十二日写焉／右此縁記寄進旨趣者同当寺之／鎮守新也及聞令受与者也／十世郭誉」。

- d 前表紙見返しに墨書「菅谷村東光寺鎮守縁記／同村龍心寺寄進／郭誉」。
- 60 明石名勝畧記（＝外題） 1120043972 〈写真66頁〉
- a 仮綴一冊・全一〇丁（遊紙なし）／縦二三・四×横一五・七cm／無辺／◎
- e 表紙に人麻呂の「ほのく」と歌、表紙見返しに順徳院の「あかし湯」歌記載。表紙から見返しまで一連の絵を画く。本文中には挿絵なし。
- f 東北大学附属図書館蔵『名所小志叢』14 西尾市岩瀬文庫蔵『縁起類聚』第七冊45
- 61 「高野の仇討略図」（e参照） 1120043980 〈写真67頁〉
- a 仮綴一冊・全四丁（遊紙なし・表紙欠損か）／縦二四・五×横一六・五cm／無辺（ただし、最初の二丁は四周単辺）／◎
- c 末に「和歌山県平民／出版人 田中橋之助／紀伊国伊都郡／西郷村百一番地」。
- e 虫損多い。日本最後の仇討ちとされる明治四年高野町神谷での仇討ちを絵（最初の二丁）と文章で描く。
- f 京女図M¹⁶
- 62 安楽寺安置天満宮御自作御神像并靈宝略御伝記（＝外題） 1120043999 〈写真67頁〉
- a 仮綴一冊・全四丁（遊紙なし）／縦二四・五×横一六・九cm／無辺／◎
- c 表紙左下に「北野天満宮／社人中印」。末に「文亀三年二月廿五日 北野天満宮／社人中」。
- e 「天満宮御自作神像」「枕箱観世音菩薩」「鳴郭公之神宝」について記す。
- f *都立中央図書館所蔵蜂谷文庫『縁起叢書』第九冊之一〇（先掲『略縁起集成』第二巻に翻刻収載）。

例えば、久野俊彦氏「一枚刷り略縁起の形成」(堤邦彦氏・徳田和夫氏編『遊楽と信仰の文化学』森話社、平22)が「社刊行の名所記は、名所と宝物の由来を語る一枚ものの刷り物であり、一枚刷りの略縁起の板行に先行するものであった」と説く。右目録稿を眺めるに、時代的には江戸後期以降のものがほとんどであろうが、社寺の開創縁起などを記述したものではない、「名所と宝物の由来を語る一枚ものの刷り物」「社刊行の名所記」と言うべきものが、目に付く(社寺の開創縁起や本尊の由来を中心に記述するものは、3・6・8・9・10・12・14・15・54・55・59・62のみ)。他の略縁起集に比べて、そうした類が多く含まれているように思われる。その点、右略縁起集の一つの特徴と言えるであろう。中には、霊木類の寸法などが注記されるだけで、「由来を語る」記事が全然ないもの(項目a末尾に●印を付したもの)も少なくないし、さらに極端な場合、内題と絵のみで他にいかなる記事をも含んでいない(35・36・37・44・51)。それは最早、「名所記」とも称し難く、「名所絵」と言うべきなのかもしれない。後世の社寺刊行の絵葉書類にも由来などを伝える簡略な記事を伴うものとそうでないものがあるが、右のような「名所記」や「名所絵」には、やがてそうした絵葉書類へと繋がっていく面もあるのだろうか。

また、右目録稿を眺めてすぐに気付くのは、同じ「名所」でも特に「名木」「霊木」を取り上げたものが多数を占めることである。集められた「名木」「霊木」は、小石川白山神社の旗桜(1)、越後七不思議に数え上げられる三度栗(7)と数珠掛桜(22)、堅神観音寺の波切松(11)、大阪谷町妙法寺の加藤清正手植の松(16)、山形県村山市と岡山県和気郡の臥龍松(20・49・50)、明石人丸神社の盲杖桜(21)と船形(八房)梅(24)、愛宕山月輪寺の時雨桜(23)、近江唐崎神社の一ツ松(25・27・51)、住吉難波屋の松(28・31)、高砂神社の相生の松(32・35・36・37)、高砂尾上神社の相生(尾上)の松(33・38・39)と都恋しき片枝松(34)、播州曾根天満宮の曾根の松(42・46)、播州別府住吉神社の手枕の松(47)、讃州七宝山神照寺普門院の植田松(52)、堺市広普山妙国寺の大蘇鉄(56・58)。これら「名木」

「靈木」についてのものが、A『社寺縁起由来』が収載する略縁起全体の実に六割にも及んでいる。例えば和田恭幸氏が「全く説明書のない図だけ」の「一枚刷りの略縁起類」のうち「松や桜の名木、宗祖一代に纏わる靈木の図」について、「これらの量も、相当なものである。これら一枚一枚を比較してみると、同じ社板行のものでも、別板や、相当地に刷りの悪いものが多々ある。つまり、何度も同じ版木で刷られ、また版木を変えて、どんどん板行されたことがある」（先掲『略縁起集』二二四頁）と指摘する状況と対応するところであるが、右のうち唐崎神社の一ツ松や住吉難波屋の松の場合など、同一の樹木（元来のものを受け継いだ後継木も含めて）を取り上げた別板の略縁起が複数収載されてもいる。以上のこともまた、他の略縁起集には見難い、大きな特徴であるに違いない。Aがいつの時点でも今の六十二点に一括されたのかなど、伝来について詳細はわからないが、如上の特徴は、少なくともどの時点かの収集者の関心あるいは志向を反映したものなのだろう。

三 卷子装略縁起集に綴った旅日記——朱筆書込詮索

右の目録稿のdの項目に掲げた通り、Aに収蔵される略縁起群には、複数の書込が見られる。例えば、18「三井寺弁慶汁鍋図」と41高砂尾上靈鐘之由来では、「明治四十二年四月一日江州大津三井寺ニテ受ケ」「明治四十二年三月廿七日播州尾上ニテ受ケ」と、同じ形で右端に書き込まれ、裏面にも同様に「弁慶汁鍋」「尾上ノ鐘」と墨書されている。そして、同じく黒印「和田／安部喜壽」も見える。これらは、同一人物が同じ時期に求めて、同じように書き込むなどしたものであるに違いない。

とりわけ注目されるのは、十数点の略縁起に加えられた、同筆と見られる朱筆の書込である。朱筆による書込だけ、○印や指示線といった符号の類は除いて、改めて以下に掲出する。一点の中に複数含まれている場合は、それぞれにx、

y あるいは z の記号を付した。また、試みに句読点を加え、年号には西暦を傍記しておいた。なお、朱筆書込を含んだ略縁起の書名を掲げた、その下には、前節に掲げた目録稿と同じく、同略縁起の写真を後のどの頁に載せたのかを、〈写真頁〉という形で示した。

3 奥州金華山畧縁起〈写真68・69頁〉

x 「□□年中江戸^二而開帳□。」(内題下)

y 「慶応元丑歳六月、両国回向院^二而開帳。」(末尾)

4 牛石池之図〈写真70・71頁〉

「嘉永元甲歳七月九日十日、折能／大祭礼ニ参詣。夫より松嶋見物ス。」(末尾部)

6 観谷山聖輪寺観音略縁起〈写真70・71頁〉

x 「青山千駄ヶ谷 御府内之佛閣^二而、千二百余年。」(右端)

y 「弘化二巳歳正月廿四日昼八ッ時、大風^二而青山鼠穴□」(左端)

8 天拝一光三尊如来縁起〈写真72・73頁〉

「下野国芳賀群」(下端左)

9 紀州日高郡道成寺御建立畧縁起〈写真72・73・82頁〉

x 「弘化三丙午歳六月十三日参詣致候。其節頭書。」(匡郭外右端)

y 「弘化三丙午歳六月此かね拜^シ頭書」(匡郭外左端)

z 「当山^ニ安珍きよ姫之由来絵巻物開帳。言立国なまり^ニて余程おもしろし。／日高川より直道向あたり、小高き御

寺石段あり。右側ニ鐘堂あり。是より／徳本上人御出生所耆り半。」(匡郭外上端)

11 志州堅神観音寺波切松図〈写真74・75頁〉

「竹川町新兵衛殿同道ニ而／伊勢參宮。其節、志州渡羽／日和山其外見物。帰路ニ此絵図／求。」(左上角近く)

13 石山寺源氏間紫式部影讚〈写真74・75頁〉

「丸屋六右衛門泊り。名産うなぎ／蒲焼、大平へ入出ス。其外、なまず／風味よろしくぞ。」(内題下)

15 摂州有馬湯本温泉寺薬師如来畧縁起〈写真76・77頁〉

x 「弘化三丙午歳六月廿八日より七月二日迄□留ス。此所ヨリ八丁ニ而／つゝ、みがたきあり。」(右端)

y 「嘉永元甲歳七月十四日參詣ス。是より十八里程大海。渡之波へ乗ル。」(左端)

17 「三井寺靈鐘之図」〈写真76・77頁〉

「弘化三年六月參詣ス。其節頭書。／当処より日高川一り程有り。是より一り半程ニ而／徳本上人出生地有り。」(匡郭

外上部)

19 三井寺鐘由来〈写真78・79頁〉

「天保九戊歳、予十九歳之節、／始而上方見物ス。」(匡郭外左)

40 尾上のかね由来〈写真78・79・82頁〉

x 「文久元酉歳／十二月十一日、長崎／帰路ニ三度目參詣。」(上端)

y 「誠に希代之鐘ニ而、／此世界之品には／不被思。第壹名号／其外□文字少しも／無し。」(xの左)

z 「参銭入ル。下へ落ル。」(鐘の絵の龍頭近くを指して)

49 「臥籠松図」〈写真80・81頁〉

x 「弘化三丙午歳六月廿五日／見物ス。」(右上隅近く)
(一八四六)

y 「備前国大内村之郷土／一井氏庭中ニ有リ。」(xの左)
(一八四六)

z 「弘化三年歳五月廿五日より六月二日迄、清水屋新助方滞留ス。／坂東三津五郎外大坂之中役者式人居合ス。」(左端)
(一八四六)

57 「撰泉堺広普山妙国寺蘇鉄図」(写真80・81頁)
(一八四六)
 「弘化三丙午、上方見物三度目。／其節此絵図求。」(右上)

これら朱筆の書込は同筆であつて、同一人物によるものと見られる。例えば、9 紀州日高郡道成寺御建立畧縁起の書込 x に「……参詣致候。其節頭書」(後掲写真73頁右下)、11 志州堅神観音寺波切松図に「……志州渡羽日和山其外見物。婦路ニ此絵図求。」(後掲写真75頁左下)とあるように、「参詣」「見物」の旅に出かけ現地を赴いて略縁起を入手した人物が、次々に書き込んだものであるに違いない。ただ、3 奥州金華山畧縁起の場合、「……両国回向院ニ開帳」(後掲写真69頁左下)と書き込んでいたので、現地と言つても、奥州金華山でなく両国回向院での出開帳に赴いた際に入手したものと見られる。40 尾上のかね由来の書込 y (後掲写真79頁左下)の四行目は、いずれの文字も中央部が縦に細長く欠けているが、それは、折り目にまたがつて、その上に書き込んだ結果であろう。当初より折り畳まれていた略縁起を開いて書き込んだのか、入手後に折り畳んでしばらく経ってから書き込んだのかは、不明。また、朱筆書込の見られる略縁起には、3・6・8・9・15のように絵を伴わず縁起記事ばかりで満たされたものもあれば、11や17・49・57のように縁起記事のない名所絵といふべきものもある。それらが特に区別なく取り扱われているようである。

年記が見える書込のうちで年代上最も遡るのが、19 三井寺鐘由来の天保九年(一八三八)のもので、書込者が十九歳にて最初の上方見物に出かけた際のものということである。書込者は、文政二年(一八一九)の生まれであつたらしい。

最も遅いのは、右に触れた3の慶応元年（一八六五）の書込で、その時点には、書込者は四十歳代後半になっていよう。また、57「撰泉堺広善山妙国寺蘇鉄図」に見える弘化三年（一八四六）の書込に「上方見物三度目」（後掲写真81頁下）とあるので、天保九年以降の約八年間に三度、「上方見物」に出かけていることになる。出かけている先は、その上方の辺りが中心だが、他には江戸や奥州方面が目につく。弘化三年（一八四六）の年記が殊に多く見え、前後の弘化二年と嘉永元年（一八四八）の年記も見られる。その時期に特に頻繁に出かけていたのか、その時期のものが偶然にまとまって当該一括資料の中に含まれているのか、いずれかなのであろう。なお、書込者がいかなる人物かは不明だが、40の文久元年（一八六一）の書込xに「長崎帰路三度目参詣」と記されているので、少なくとも同時点には長崎に在住した人物か。あるいは、当初より長崎に居住していたのかもしれない。そうした人物にとつて、先述通り約八年間で上方見物三度というのは、決して不自然なものではなからう。

特に15撰州有馬湯本温泉寺薬師如来畧縁起の書込に注意される。右端にx、左端にyと、両端に書込が見られる（後掲写真76・77頁参照）。xの中の「つゝ、みがたき」（鼓が滝）は、有馬の名所として知られるし、yの中の「是より十八里程大海」というのも、有馬から瀬戸内海岸までの距離としては長過ぎるようではあるが、瀬戸内海岸と言っても例えば姫路方面ならば、およそ妥当なところであろう。しかし、xが弘化三年（一八四六）の逗留、yが嘉永元年（一八四八）の参詣をそれぞれ記す、その年代上の差異は理解し難い。その間ずっと有馬に逗留していたということでは無_論なく、xの方に、弘化三年の六月二十八日〜七月二日の逗留であったことが明記されている。15に同居する、このx・yの二つの書込を、どう理解すればいいのだろうか。

右端のxは二行に亘って記されているが、そのうち第一行の各文字はいずれも、左半分が見えるだけで右半分が見えない。宛も文字列の中央部に定規を当てて右半分を切り捨てたかのようなようである。しかし、実際に料紙が切断された結果、

右半分が見えないということでは決してない。例えば10「紀伊国日高郡天音山道成寺縁起」でも、左右両端にそれぞれ「紀伊国日高郡」「天音山道成寺」と印字されているうち、前者は各文字の右端部分少々、後者は各文字の左端部分少々、料紙の左右両端のところで見えなくなっている（後掲写真45頁）。この場合は、何らかの事情あつて、いくらか文字列に掛かつて料紙の両端が切り落とされて、それで左右の文字の一部がそれぞれ見えなくなっているに違いあるまい。15の場合は、それとは異なる。右端の書込xの文字が定規を当てて右半分が切り捨てられたかのように左半分だけが見えている、その右側に、まだ料紙が数mmほどの幅に亘って存在している。そのことは、料紙が切断されたのに伴って文字列の右半分が失われたということでは決してないことを意味している。上のことから想定されるのは、約数mm分を糊代として、そこに別の紙の左端が上側になるように貼り合わされていて、その接ぎ目に両紙にまたがる形で書込がなされたあと、糊が剥がれた結果、定規を当てて切り落とされたかの如く、文字列の右半分が欠けている、ということであろう。

15に見られる書込のうち、右の右端の書込yだけでなく左端の書込yの方も、よく見ると、「程大海」の三文字あたりの左端がわずかに欠けている（後掲写真77頁左下）ことに気付く。15の左側にも別の紙が、そちらの紙の糊代が下側になるように重ね合わせて貼り接がれているのだらう。その接ぎ目にわずかに掛かる形で書き込まれていて、糊が後に剥がれた結果、文字の左端がわずかに欠けたのだらう。結局、右側だけでなく15の両端にそれぞれ別の紙が貼付されていたものと見られる。いかなるものが貼付されたのかと言え、それはやはり略縁起であつただらう。

左端の書込yの一文字目「嘉」の上方に、同じ朱筆によるらしい○印があり、そこから料紙の左端へと引かれた、やはり朱筆による線がいくらか見られる（後掲写真76頁）。同様の○印またはその一部は、8の書込、9の書込z、57の書込の各一文字目の上方にも見られる（後掲写真73頁上・同右下、81頁下）。書込の始まりを示す記号なのだらう。また、

57の書込の場合、15の書込 y と同じく上方の○印から左方へと朱線が引かれてもいる。8の書込の上方の○印からも朱線が延びているし、3の内題の上方にも、料紙右端上から本文一行目行頭へと引かれた朱線が見られる（後掲写真69頁右上）。どれに対する書込であるのかを示す線なのだろう。とすれば、15の書込 y は、15に対する書込ではなくて、朱筆指示線が指し示すように、15の左側に貼り接がれていた別の略縁起に対する書込だということになる。一方、15の右端の書込 x の上方にも朱筆による指示線が、やはり糊代分と見られる数mm分ほどを残した料紙右端から、本文一行目の行頭付近へと引かれている（後掲写真77頁右上）。書込 x は、右側に貼り接がれていた別の略縁起との貼り接ぎ箇所を亘って書き込まれた、こちらはまさに15に対する書込に違いなからう。結局のところ、 x と y は、15に同居しながら、それぞれ別々の略縁起に対して加えられた書込だったのである。それで、両者の年号に差異が生じたのである。

15以外の略縁起についても、さらに点検・観察してみる。

1 小石川白山境内旗桜之由来には朱筆で書き込まれた文字はなく、したがって、本節冒頭に改めて掲げたりしてはいないが、注意深く観察するに、その左上の隅の方に朱筆による○印の断片らしきものが見られる（後掲写真69頁左上）。これは、この1の左側に貼り接がれていた別の略縁起についての書込の始まりを示すものであるのだろう。書込自体は、左側に接がれた別の略縁起の右端に記されていて、その始まりを示す○印だけが、1の料紙に一部掛かって記されたのだろう。13石山寺源氏間紫式部影讚では、右端から数mm内側に文字の左端のほんの一部が上から下まで断片的に見られ、さらにそれらの上方には、内題の左側へと向かう朱筆の指示線が引かれている（後掲写真75頁上）。この13には、内題下に書込が見えるが（同右下）、恐らくはそれへと続く書込が、右側に貼り接がれていた別の略縁起の左端から貼り接ぎ箇所にかけてなされていたのである。40尾上のかね由来の右端の七mmほど内側にも同様に、朱筆による文字の左端の断片が見える（後掲写真79頁右下、82頁）。やはり、右側に別の略縁起が貼り接がれていて、そこに書込がなされていて、

糊が剥がれた結果、痕跡が残っている、ということであろう。先に触れた57「撰泉堺広普山妙国寺蘇鉄図」の書込の上方の○印も、料紙右端から数mm内側のところで右半分が欠けた状態になっており、この57の右側にも別の略縁起が貼り接がれていたものと見られる。また、6観谷山聖輪寺観音略縁起の書込Yと9紀州日高郡道成寺御建立畧縁起の書込Yは、いずれも料紙の左端にあるが、そこに記された文字のうちの一部は、左端がわずかに欠けているようである（後掲写真71頁左上・同下、73頁左上、82頁）。これら6と9の左側にも別の略縁起が貼り接がれていたであろう。

右に確認してきた通り、書込者によって略縁起が左右に貼り接がれ、その接ぎ目に左右両者にまたがる形で書込がなされていた、その痕跡と見られるものが、少なからず認められるのである。さらに、そういう操作が行われていたことを明らかに示す決定的証拠を、提示することもできる。右に取り上げたうち、9を右に、40を左にして、両者並べると、9の左端の書込Yの文字列の左端がわずかに欠けているのと、40の料紙の右端から7mmほど内側に見える文字の左側の断片とが、ぴたりと符合するのである（後掲写真82頁）。40の料紙の右端7mmほどを糊代として、40の右端の上に9の左端を重ねる形で両者が貼り合わされていたに違いない。書込者は確かに、入手した一枚刷の略縁起を横長に連ね、その上に朱筆で書き込む、という操作を繰り返していたのである。例えば、西尾市岩瀬文庫所蔵の安政四年（二八五七）編『日本諸国絵図面』は、一枚刷の略縁起を、上巻には六十一頁、下巻には五十三頁、それぞれ横長に貼り接いで、二巻の卷子本としたものようである。同文庫所蔵の幕末期『海道名勝画卷』や明治十二年以降『親鸞聖人越後旧蹟略縁起』も、一枚刷略縁起を貼り接いで卷子本にしている。以上、同文庫古典籍書誌データベース参照。右の朱筆書込者も、収集した略縁起を、これら卷子装略縁起集と同様に卷子本に装訂して整理したのである。

8天拝一光三尊如来縁起の書込は、他の書込と違い料紙の下端に文字が横倒しになった形で見られ、やはり料紙を1cm近く残して切断されたようにどの文字も左側が三分の一ほど欠けている（後掲写真73頁上）。それは、略縁起の料紙

を横転させ横長に貼り接いだうえで書込を加える場合のあったことを示していよう。では、どの略縁起とどの略縁起を貼り接ぐのか、そこに何らかの法則があるのだろうか。左側に貼り継がれた40との接ぎ目に掛かって施された9の左端の書込 y 「弘化三丙午歳六月此かね押 \searrow 頭書」は、40尾上のかね由来の方についての書込と覚しく、40が入手され、ここに見られる書込のうち恐らくは y や z が記されたのが、弘化三年（一八四六）六月であることを示していよう。この9の書込 y 自体は、それら40の書込 y や z からどの程度か時間を経過して9と40が貼り接がれたあとに加えられたものであって、40の y や z とは墨色も若干異なる。40に存するもう一つの書込 x は、その記述によるに、貼り接がれる前か後か、文久元年（一八六一）に三度目に参詣した際に書き込まれたものらしい。一方、9の右端の書込 x こそが9についてのもので、9が弘化三年六月十三日の参詣に際してのものであることを明かしているが、その9と、右の通りもともと弘化三年六月時点のものである40とが貼り接がれているのである。また、15には先に見た通り、左右両端に書込があつて、右端の書込 x は、弘化三年（一八四六）六月二十八日〜七月二日に有馬に逗留したことなどを記述した、この15に対する書込、左端の書込 y は、15の左側に貼り接がれていた別の略縁起に関して、嘉永元年（一八四八）七月十四日に参詣したことなどを記述したものであつた。こうした事例は、およそ入手した順に貼り接いでいたことを窺わせようか（前者の事例には「鐘」つながりという面もあるうが）。

17 「三井寺靈鐘之図」は縦長のものだが、それを横長にして右端部に書込を加えている（後掲写真76頁下、77頁下）。その書込の二行目に「当処より日高川一り程有り」と見える。三井寺から「一り」の範囲に「日高川」は見当たらず、「当処」は三井寺を指しているのではないだろう。続いて「是より一り半程 \searrow 徳本上人出生地有り」と記す「徳本上人」は、宝暦八年（一七五八）に紀伊日高郡志賀にて誕生しており、徳本七回忌の文政七年（一八二四）に始まる誕生院が、同地に所在している。日高郡にあるそこは、当然、日高川にも近い。「当処」「是」は、紀伊の日高郡あたりを指している

に違いない。書込の一行目に「参詣」とあるから、それは同地域の寺社なのであろう。その寺社の略縁起が、横長に置いた17の右側に貼り接がれていて、上記の書込は、貼り接ぎ後に同略縁起について書き込まれたものであったのだらう。そう言えば、9 紀州日高郡道成寺御建立畧縁起の書込zに、「日高川」から道成寺までの道程が示されるとともに、「是より徳本上人御出生所忝り半」と記されている。それは、17の書込の先引部「是より一り半程^{ニテ}徳本上人出生地有り」とまさに合致している。「当処」「是」は、日高郡の道成寺を指すのであろう。そして、17の書込の一行目「弘化三年六月参詣ス」も9の書込xの「弘化三丙午歳六月十三日参詣致候」と一致するので、書込者が道成寺に参詣して9を入手したのと同じ弘化三年六月に道成寺にて入手した別の略縁起が、17の右側に貼り接がれていたに相違ない。この17「三井寺靈鐘之図」と一連のものに19三井寺鐘由来があつて、その書込（後掲写真79頁右上）によればそれは、天保九年（一八三八）に十九歳の書込者が初めて上方見物した際に求められている。17も、19と同時に入手されたものであつたかもしれない。ただ、仮にそうだとすれば、時間的に随分と隔たった、その17と弘化三年（一八四六）入手のものを貼り接いだことになり、いかにも不自然に感じられる（やはり「鐘」つながりという面はあるが）。

9は、40の右側に貼り接がれていたことが、先述通り明らかであるので、確かに弘化三年に道成寺にて入手されたものではあるが、右の17の右側に接がれていた可能性はない。また、仮に両者が左右に貼り接がれていたのなら、右に確認したような同じ内容の記事が両者に重ねて書き込まれることはなかったはずである。そこで、17の右側に接がれた道成寺の略縁起の候補として浮上してくるのが、10「紀伊国日高郡天音山道成寺縁起」である。それには、全く書込が見られない。そして、17を横長に置いた場合、10と17は、縦の寸法がほぼ一致している。17の右側には、この10が貼り接がれていた可能性が考えられよう。ただ、そもそもAの六十二点のうちのどれだけが朱筆書込者の手許にあつたのかさえ不明で、かつバラバラ状態と化した今となつては、貼り接ぎのあり方を完全に説明することは不可能である。

それはそうと、書込の内容としては、4の書込や49の書込xのような参詣または見物についての行動記録、6の書込xや9の書込zのような参詣（見物）対象に関する情報記録、11の書込や57の書込のような略縁起の入手事情などが、中心である。そんな中で、やや異色の内容も見受けられる。

13石山寺源氏間紫式部影讀には、当該略縁起の入手先であるはずの石山寺への参詣についてや、同寺に所在する源氏間についてではなく、宿泊先について書き込んでいる。しかも、記述しているのは、宿泊先の丸屋六右衛門で出された料理の中身「うなぎ蒲焼」「なます」やそれに対する評価である。13の略縁起そのものと直接関係しない、旅先における体験覚書といったものであろう。また、49「臥龍松図」の場合、書込xは臥龍松見物の行動記録、書込yは見物対象である臥龍松に関する情報記録であるが、左端の書込zは、臥龍松自体やこの49とは直接関係しない内容となっている。弘化三年（一八四六）の六月二十五日に臥龍松を見物したのよりも一箇月ほど前、五月二十五日～六月二日に滞在した先で、坂東三津五郎（天保三年（一八三二）に襲名した四代目坂東三津五郎か）ら大坂の中役者二人と居合わせたと記す。もしかすると、49でなくて、49の左側に貼りがれた別の略縁起についての書込であるのかもしれないが、いずれにしてもやはり、略縁起そのものとは関係しない旅先での体験覚書といった類であるに違いない。9の書込zは基本的には、道成寺という参詣（見物）対象あるいはその周辺に関する情報を書き付けたものである。ただ、その中で、道成寺での絵巻による絵解きについてなのだろう、「言立国なまりニて余程おもしろし」と感想めいたことを述べているのは、略縁起の内容と深く関わったものだが、情報記録であると同時に、それに止まらず、上記の場合と同様の体験覚書の類であるとも捉えられよう。

これらの書込は、参詣（見物）記録や参詣（見物）対象に関する情報記録、あるいは略縁起入手事情といった範疇を逸脱して、略縁起そのものから遊離しがちの、より自由な旅先体験覚書へと一歩踏み出しているのである。長年に亘つ

て旅先で求めてきた略縁起を次々と貼り接ぎ卷子本に仕立てつつ、略縁起と直結した参詣（見物）記録などだけではない、右のような書込をも加えていったらしい。それは最早、収集した略縁起を卷子本に整理した卷子装略縁起集というだけのものに止まらず、略縁起を契機とし略縁起を利用して綴った旅日記というに相應しい側面を有するに至っているのだと言えよう。文政二年生まれの一人の名も知れない人物によるものだが、略縁起というものの享受の、一つの興味深いあり方を、そこに垣間見ることができるようと思われる。

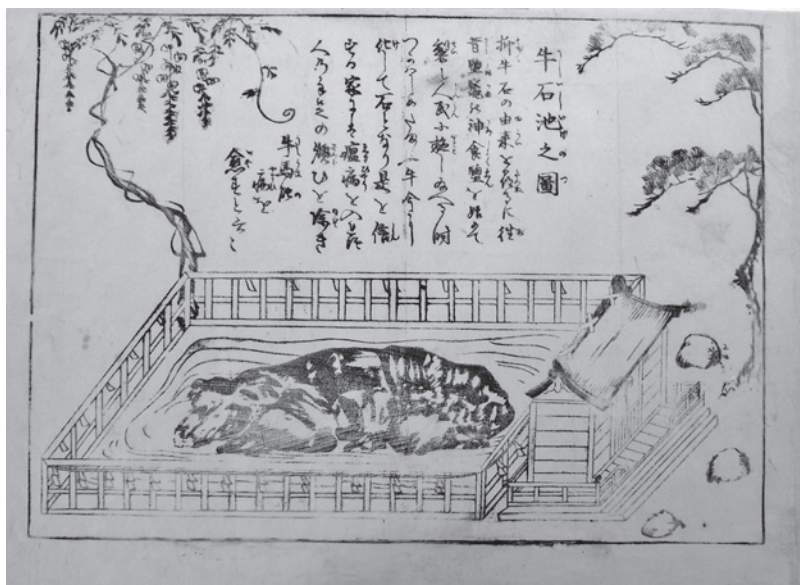
小稿は、本学大学院修士課程一回生対象の二〇一九年度授業「中世文学演習ⅠA・B」の中で、担当者の中前と受講者の千葉とが、京都女子大学図書館の協力を得て調査・検討した、その結果をまとめたものである。充分に行き届いていない面が少なくないことであろう。今後の補訂を期したい。

付 A 『社寺縁起由来』 全点写真

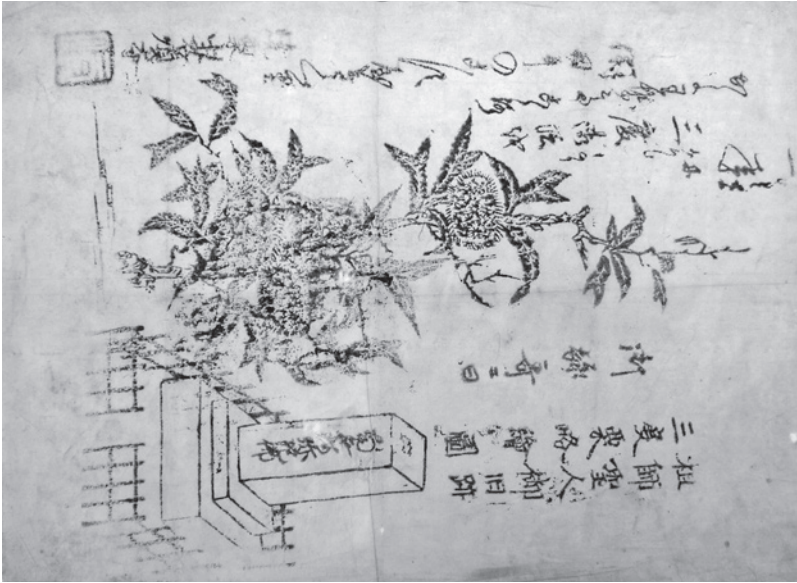
例えば、絵を中心とした一枚刷のものなど、記載された文字は全く同一でありながら絵が若干異なっている、という場合がある。そうした場合には、第二節に掲げたような目録だけでは特定不可能である。そこで以下に、A 『社寺縁起由来』 収載の六十二点すべての写真を掲載する。第三節で注目した朱筆の書込を全く持たないものをまず、一頁に二点ずつ掲げた（44頁～67頁）。そのあとに、何らかの朱筆の書込を有するものを、偶数頁に二点ずつ掲げた。奇数頁には、偶数頁に掲げた二点に見られる朱筆書込箇所の拡大カラー写真を載せた。それら（68頁～81頁）のあとには、第三節に取り上げた9と40の貼り接ぎ箇所を拡大して掲載した（82頁）。



2 [明王山宝仙寺略縁起]



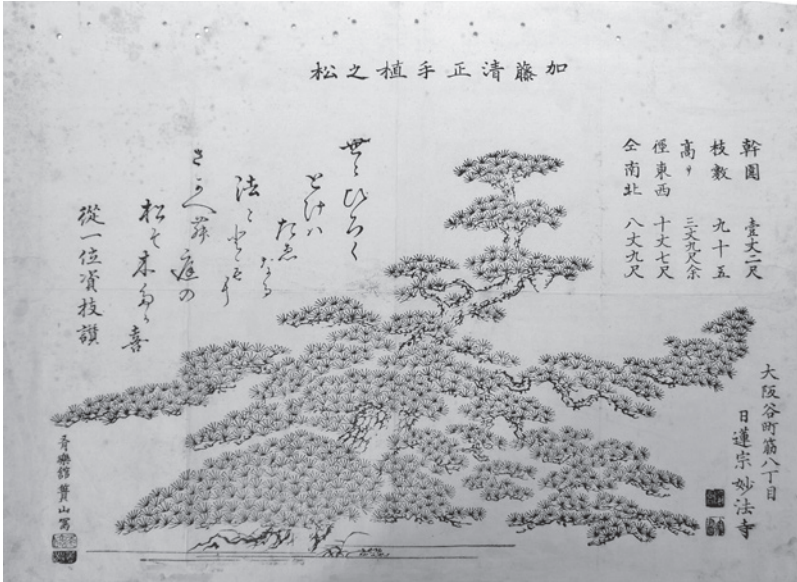
5 牛石池之図



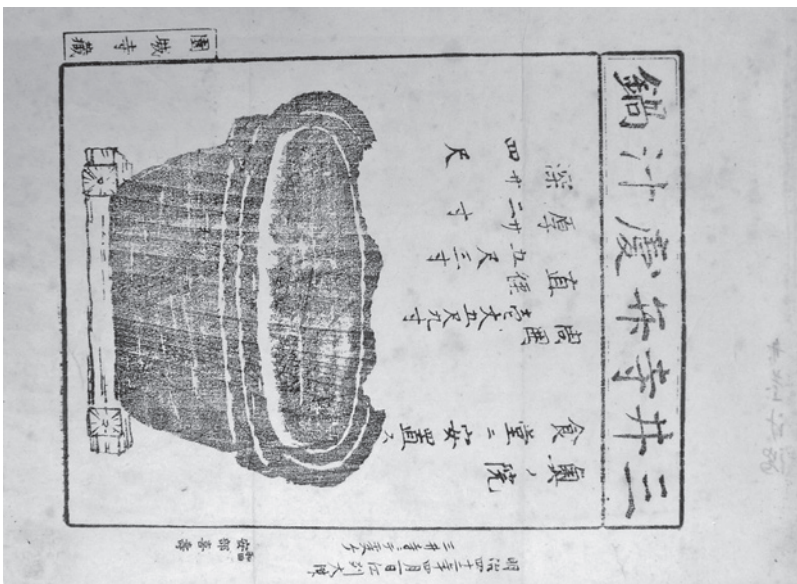
7 祖師聖人御旧跡三度栗略絵図



10 [紀伊国日高郡天音山道成寺縁起]



16 [日蓮宗妙法寺加藤清正手植之松図]



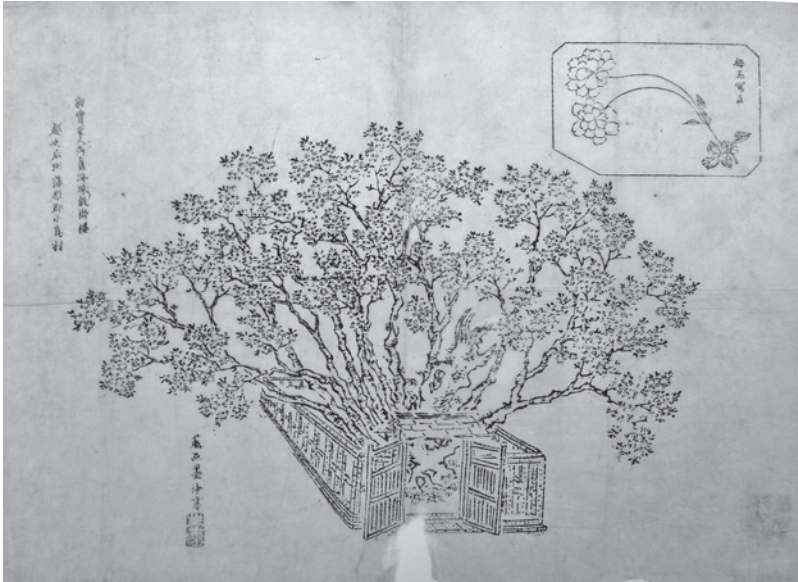
18 [三井寺弁慶汁鍋図]



20 [臥龍松図]



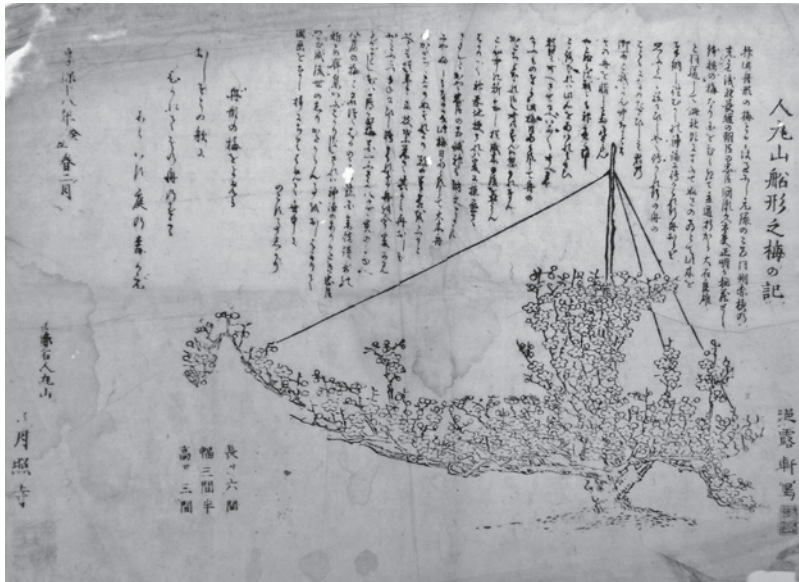
21 [播磨石磨杵本人丸神社境内杵杖櫓図]



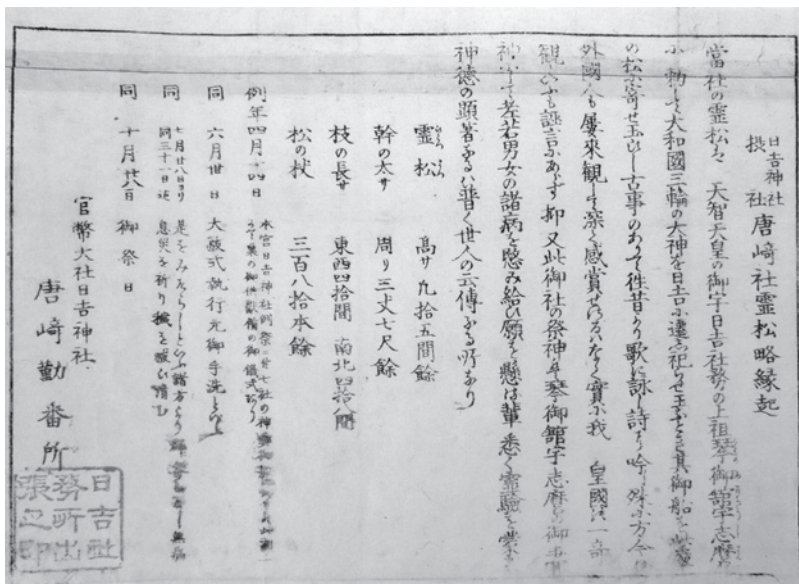
22 [親鸞聖人御旧跡数珠掛桜図]



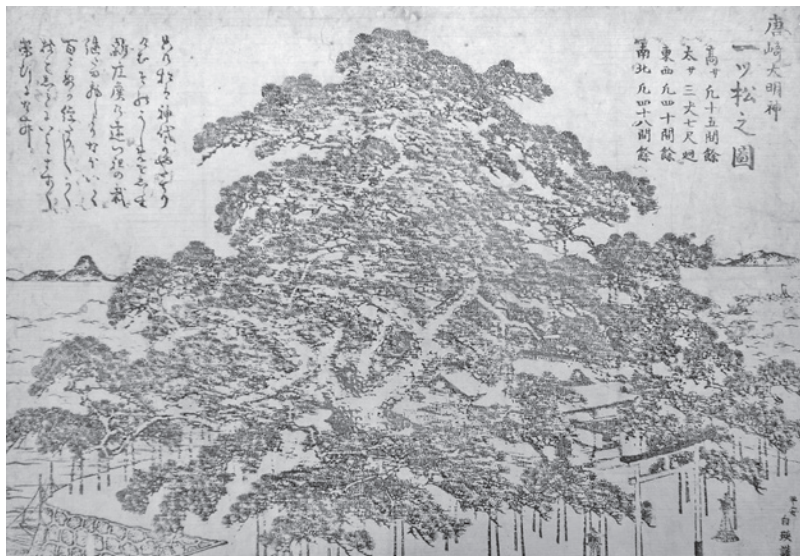
23 [月輪寺時雨桜の図]



24 人丸山船形之梅の記



25 日吉神社撰社唐崎社靈松略縁起



26 唐崎大明神一ツ松之図



27 江州唐崎一ツ松之図



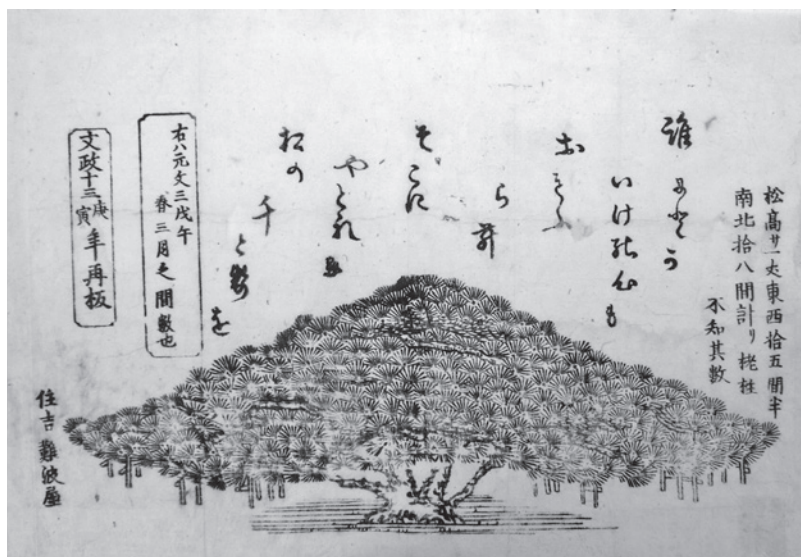
28 住吉名所之笠松



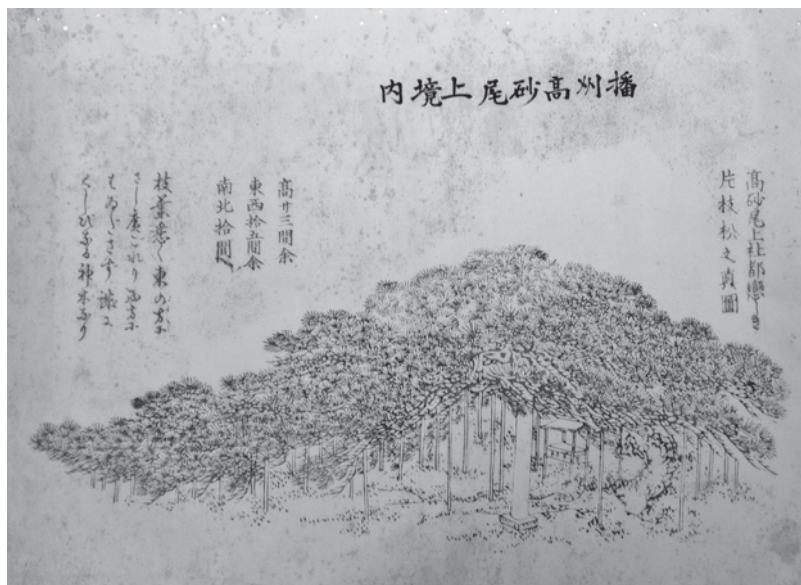
29 [住吉名所之笠松図]



30 [住吉名所之笠松図]



31 [住吉名所之笠松図]



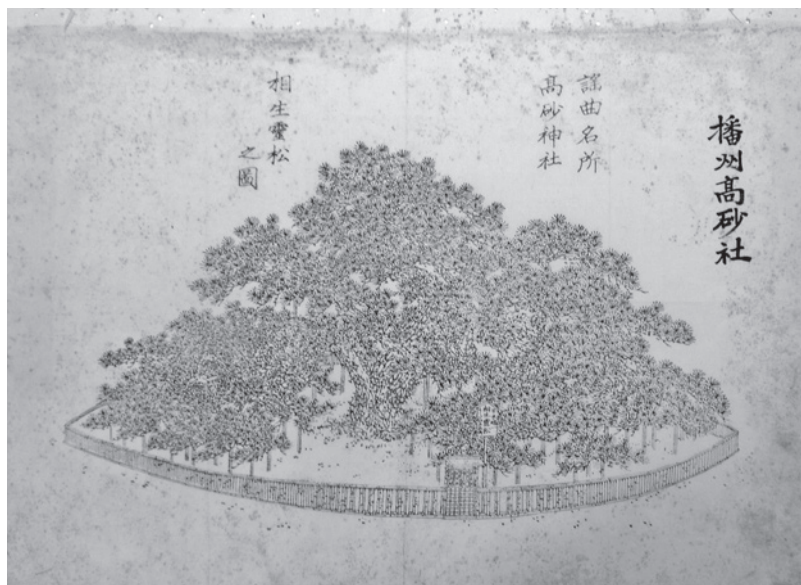
34 高砂尾上社都恋しき片枝松之真圖



35 高砂社相生靈松之圖



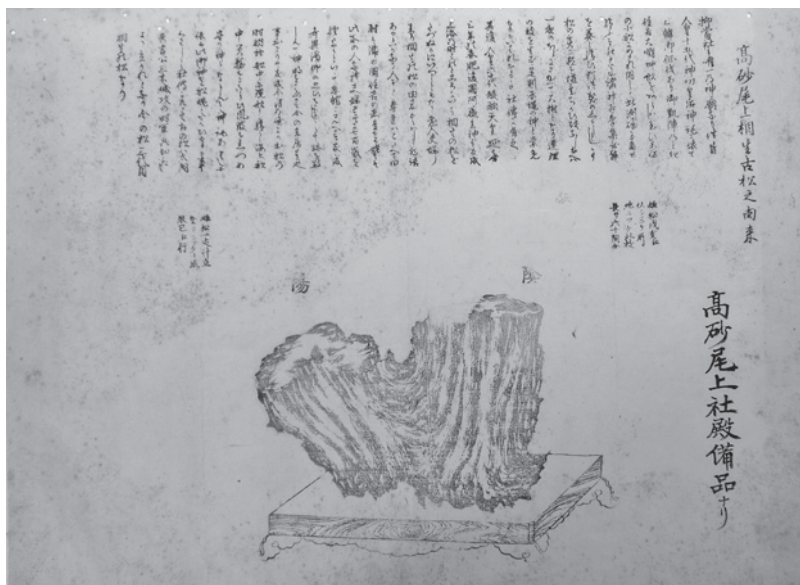
36 高砂社相生靈松之圖



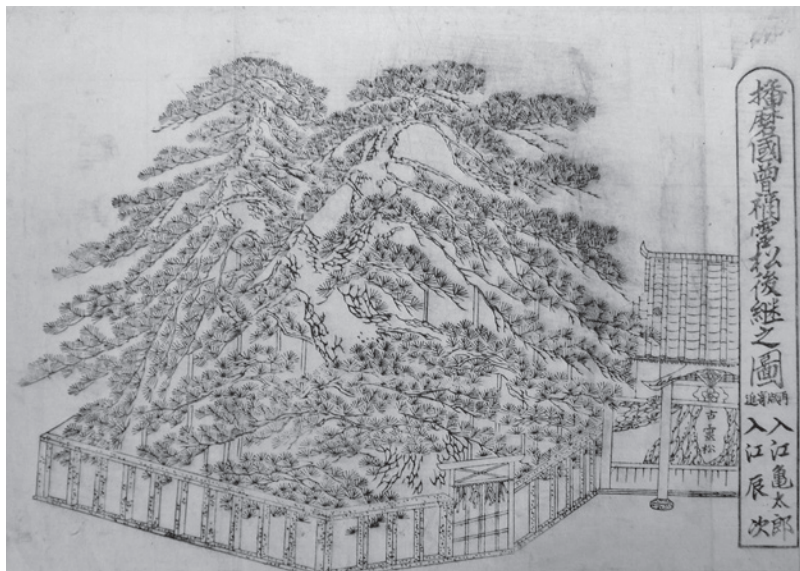
37 謡曲名所高砂神社相生靈松之圖



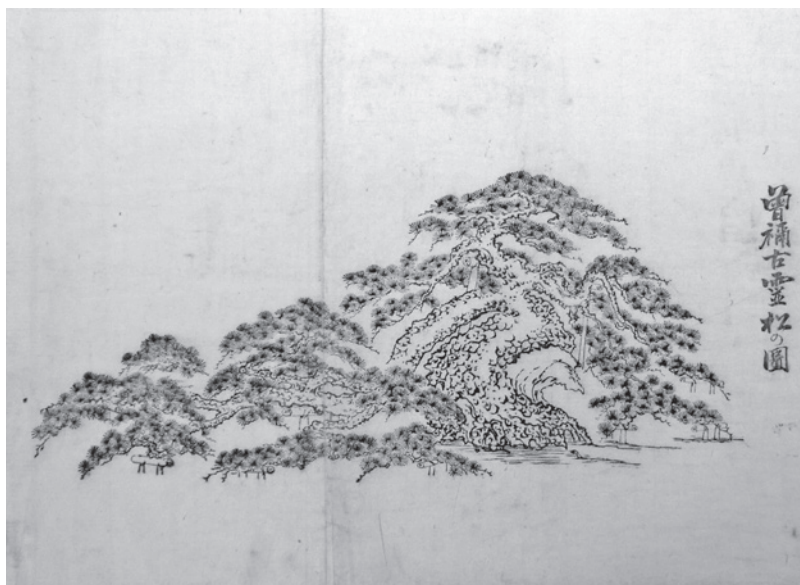
38 高砂尾上神社相生霊松真図



39 高砂尾上相生古松之由来



43 播磨国曾禰靈松後継之図



44 曾禰古靈松の図



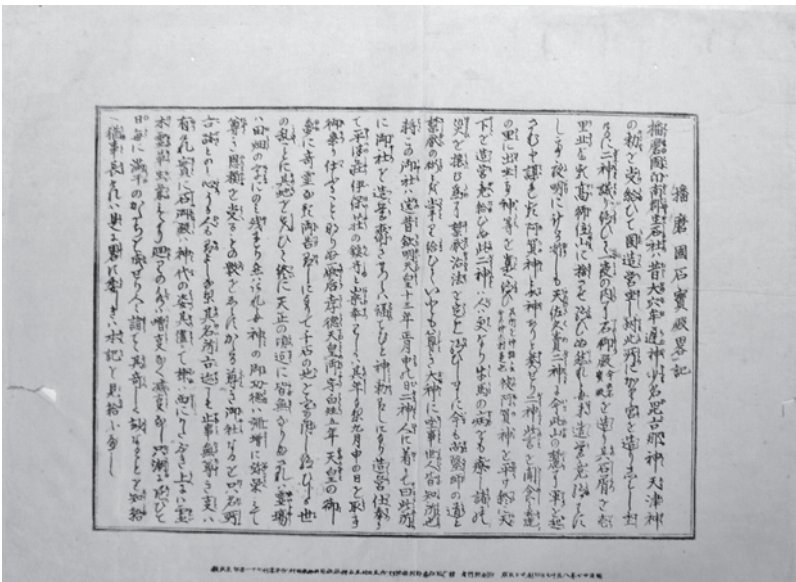
45 [播磨国曾禰菅公手植古靈松図]



46 播磨国曾禰後継靈松真図



47 播州別府手枕霊松真図



48 播磨国石宝殿畧記



50 臥龍松之図



51 近江国滋賀郡唐崎社壺松図



52 [神照寺普門院旧跡天神之松図]

高野山平野に於て是の靈場法大師禪定持佛地なり
 の里に於て思惟の用縁具に記し、是の里に
 於ての里竹、高野山先師歩代運(一代)の天子也、此將軍
 佐々木考七、大谷言家百性町人、考七は考七、日曜
 牌と云、先祖の菩提を祈り、子孫の繁昌と祈る、或は高野山
 まで一親代廻向代に、樹木と納り、養萬の菩提と云、河
 内と云、或は道行僧と云、絶入、又を樹と云、志於高野
 當山と云、高野の菩提提所と云、誠に長僧之の心、高野
 の心身の事と云、

○大日牌 金貳拾兩
 ○並日牌 金貳兩
 ○小日牌 金壹兩
 ○月牌 右、日、供、法、施、の、事、
 金貳拾百文
 右、日、牌、ハ、依、依、代、施、の、事、
 右、日、牌、ハ、毎、歳、供、養、の、儀、一、人、免、別、に、戒、名、と、僧、名、に、違、以、
 同、眼、供、養、も、七、七、夜、法、不、改、計、ち、の、法、り、皆、山、を、見、たり、
 ○茶牌 貳、茶、四、拾、八、文
 右、水、茶、湯、一、廻、向、也、
 ○塔婆 塔、婆、の、文、三、百、貳、拾、文、貳、百、拾、文、五、拾、五、文
 右、塔、婆、塔、婆、木、に、見、院、ハ、終、り、廻、向、也、
 右、塔、婆、ハ、思、惟、向、塔、婆、ハ、彼、層、右、法、り、階、下、ハ、氣、海、の、人、地、ハ、の、
 板、文、代、り、中、心、(廻、向、)後、物、手、持、本、多、也、依、り、共、極、心、命、を、す、む、也、

53 [高野山両部曼荼羅由来]

神皇正統記... 天照大神... 宇智尊... 天照大神... 宇智尊...
 ... (transcription of vertical text) ...

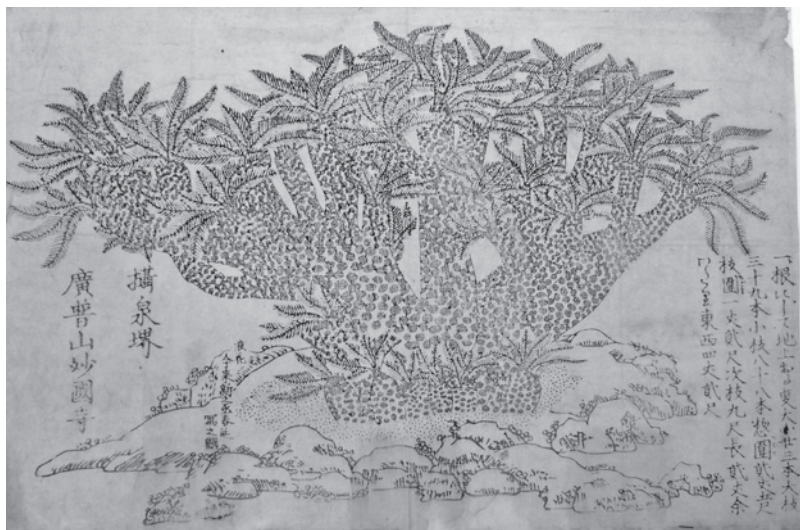
54 [源長寺由来]

... (transcription of vertical text) ...

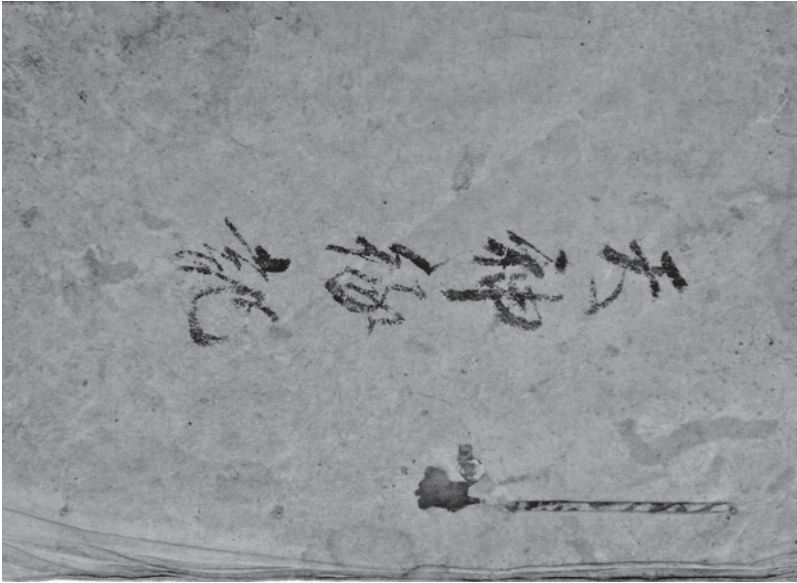
55 [親鸞聖人植髮尊像略縁起]



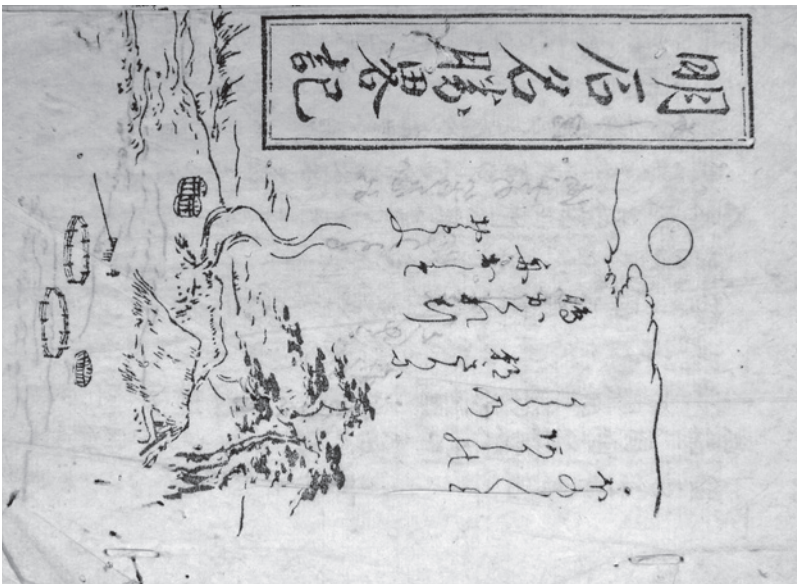
56 [泉州堺広普山妙国寺蘇鉄図]



58 [撰泉堺広普山妙国寺蘇鉄図]



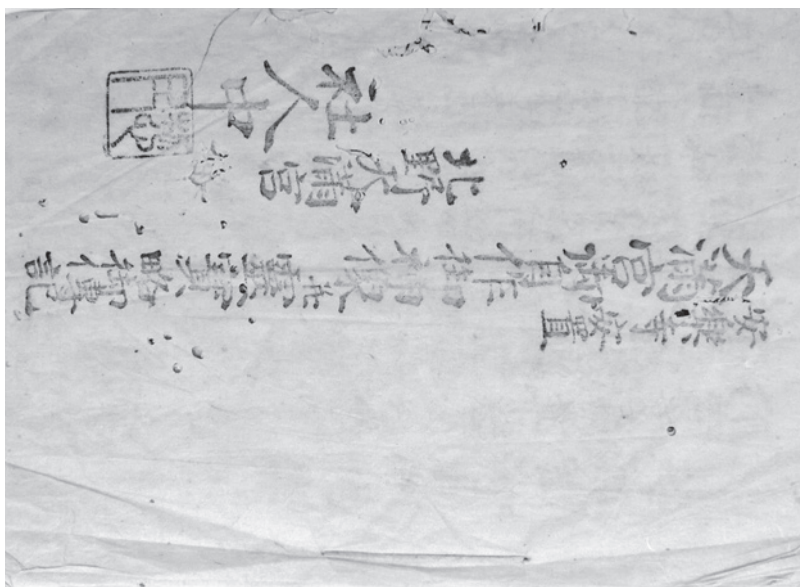
59 天神縁起〈表紙〉



60 明石名勝畧記〈表紙〉



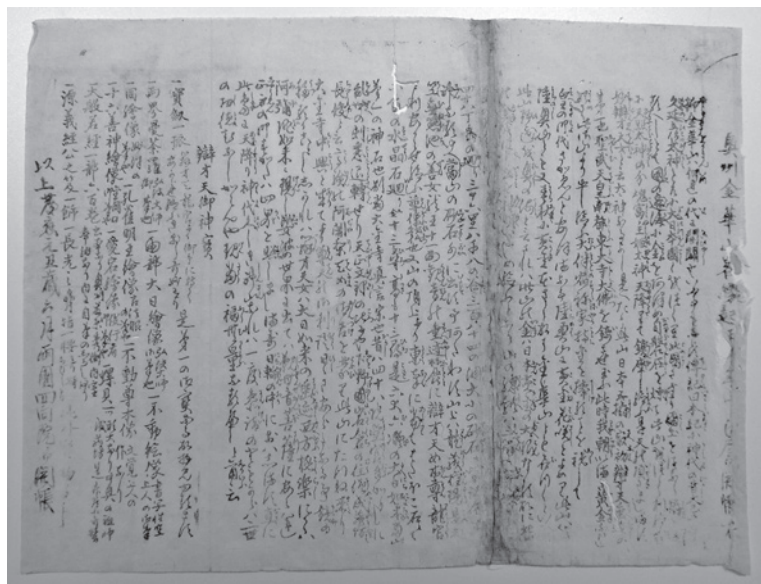
61 [高野の仇討略図]〈表紙〉



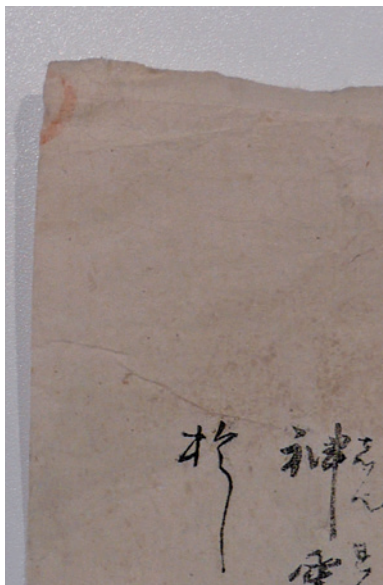
62 安楽寺安置天満宮御自作御神像并靈宝略御伝記〈表紙〉



1 小石川白山境内旗桜之由来



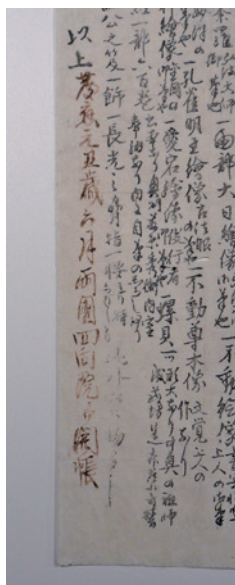
3 奥州金華山畧縁起



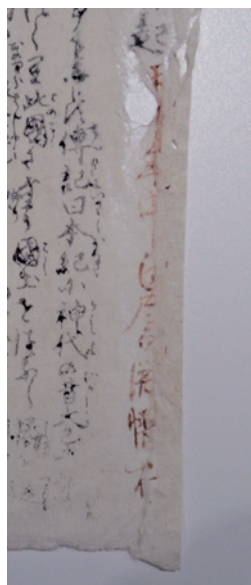
1の左上角部



3の右上角部



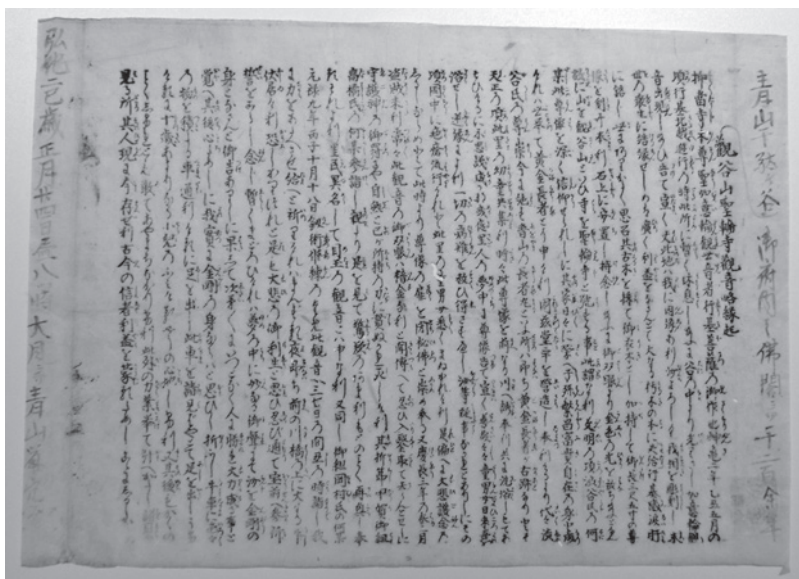
3の左端下部(書込y)



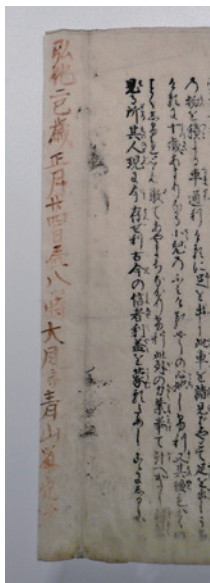
3の右端下部(書込x)



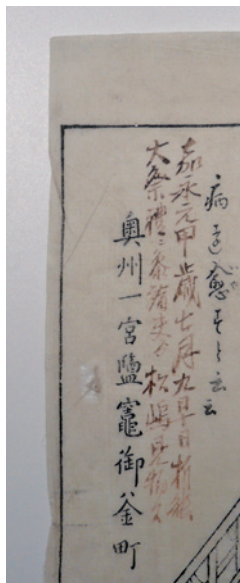
4 牛石池之圖



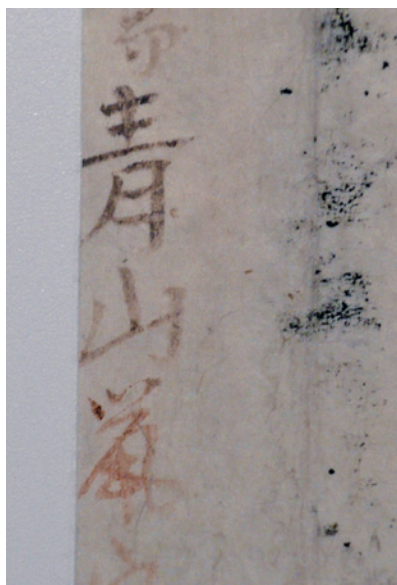
6 観谷山聖輪寺観音略縁起



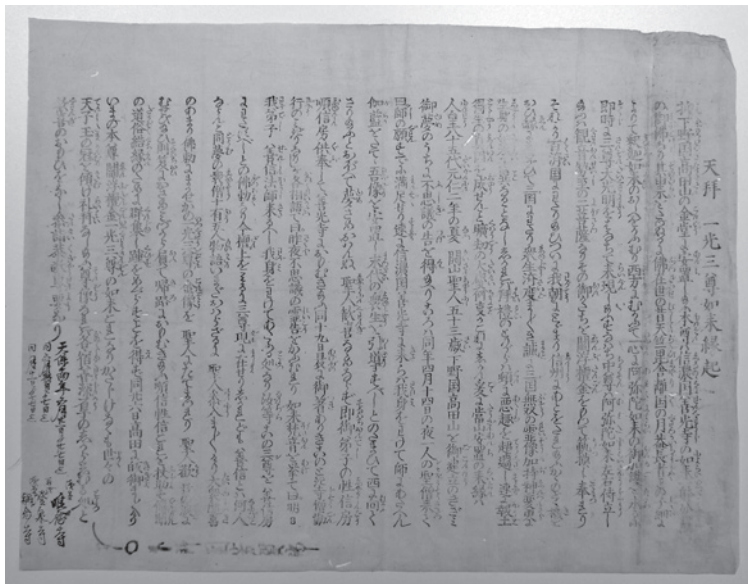
6の左端部（書込y）



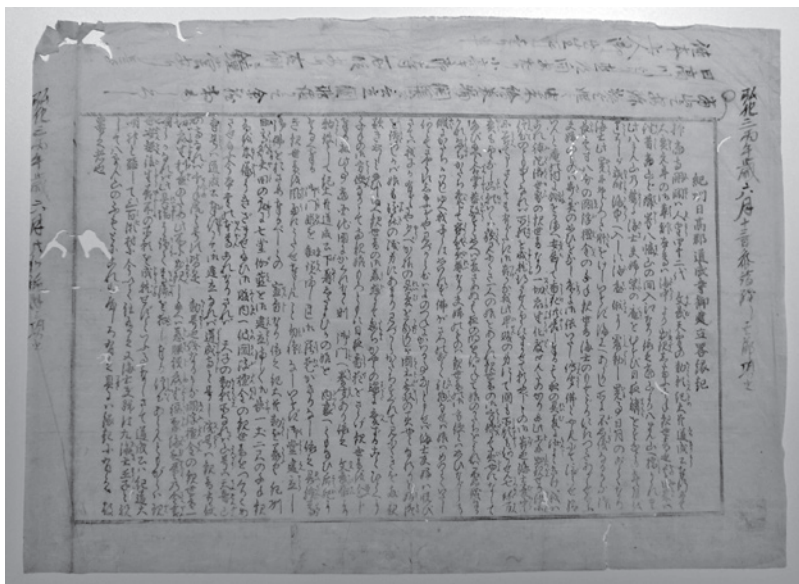
4の左端上部



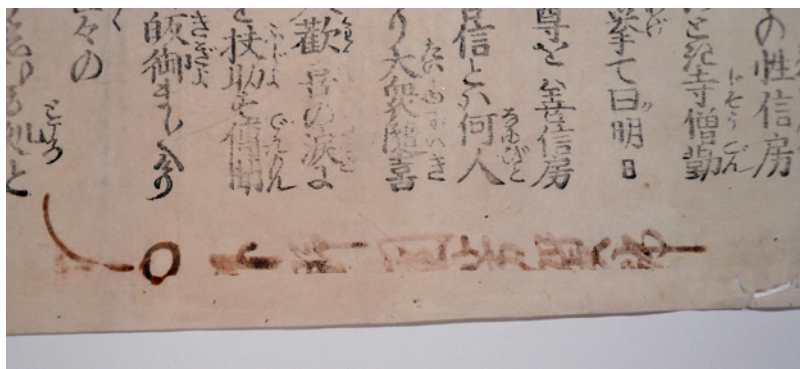
6の左端中央部（書込y）



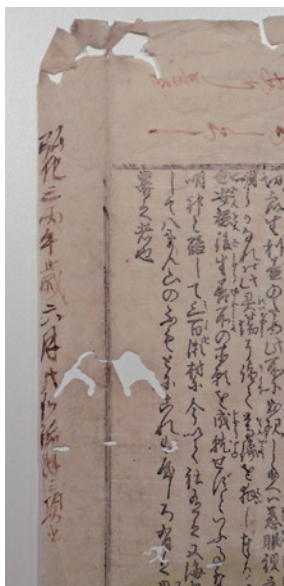
8 天拜一光三尊如来縁起



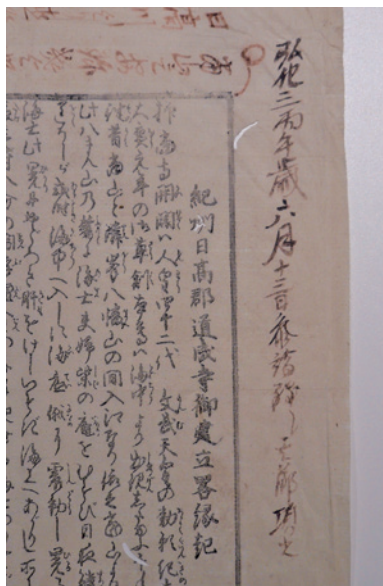
9 紀州日高郡道成寺御建立畧縁起



8の下端左部



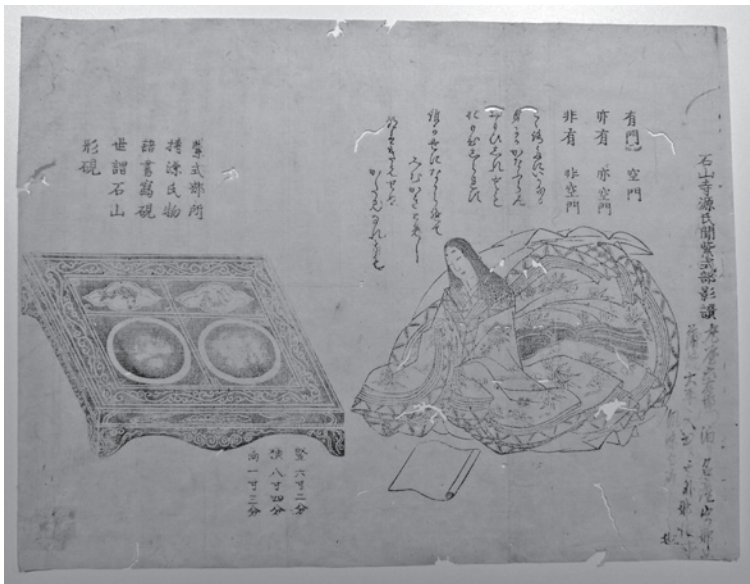
9の左端上部（書込y）



9の右端上部（書込x z）



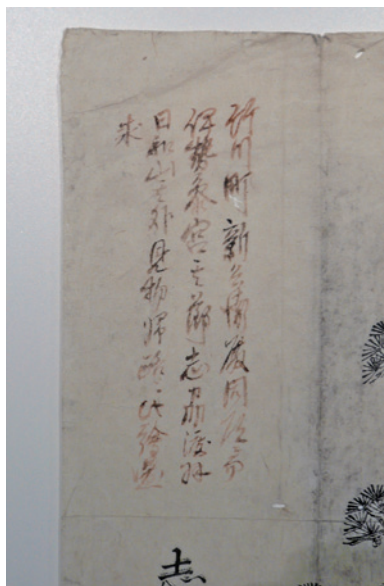
11 [志州堅神觀音寺波切松圖]



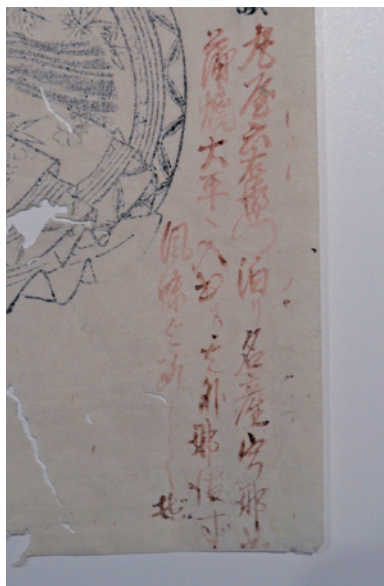
13 石山寺源氏間紫式部影讚



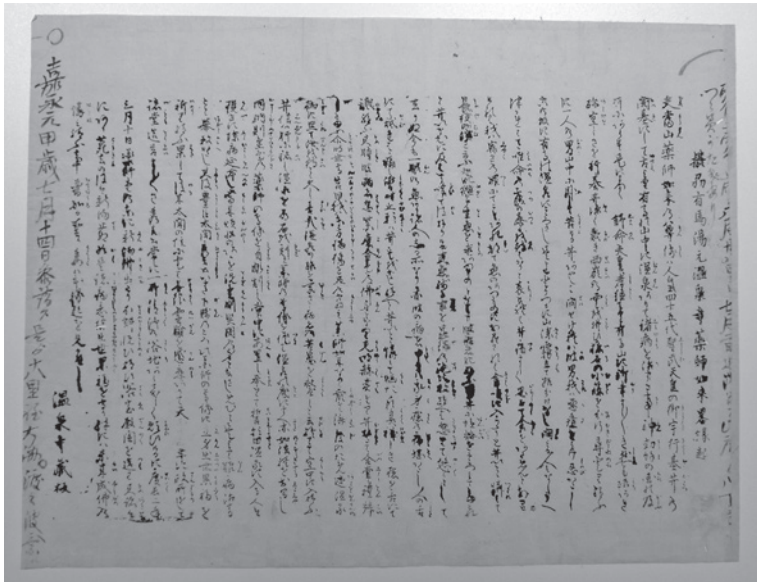
13の右上角付近



11の左端上部



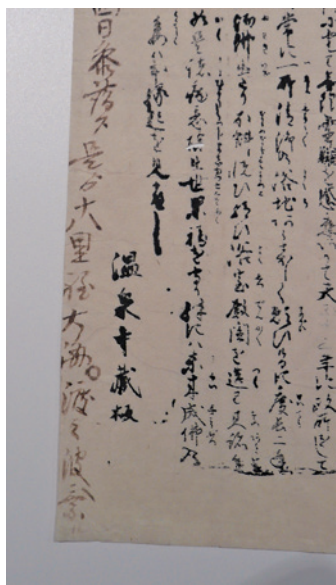
13の右端下部



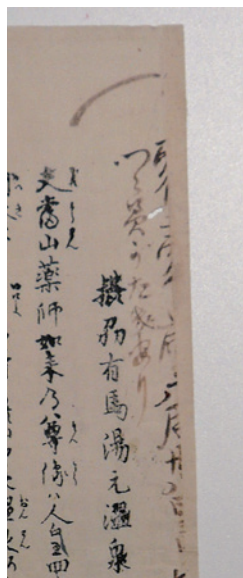
15 摂州有馬湯本温泉寺葉師如來署緣起



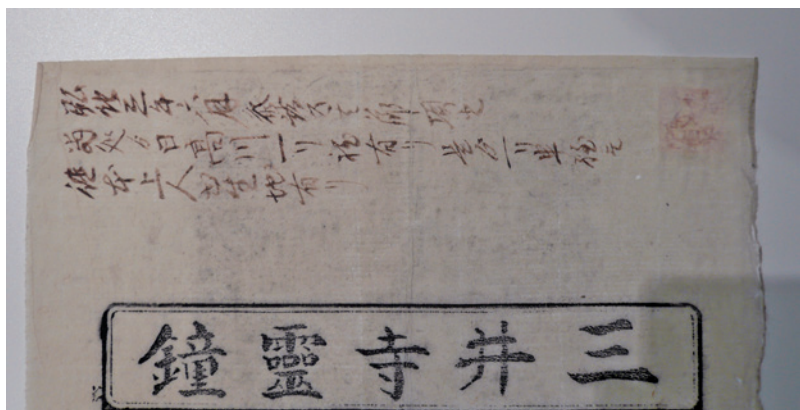
17 [三井寺靈鐘之図]



15の左端下部（書込 y）



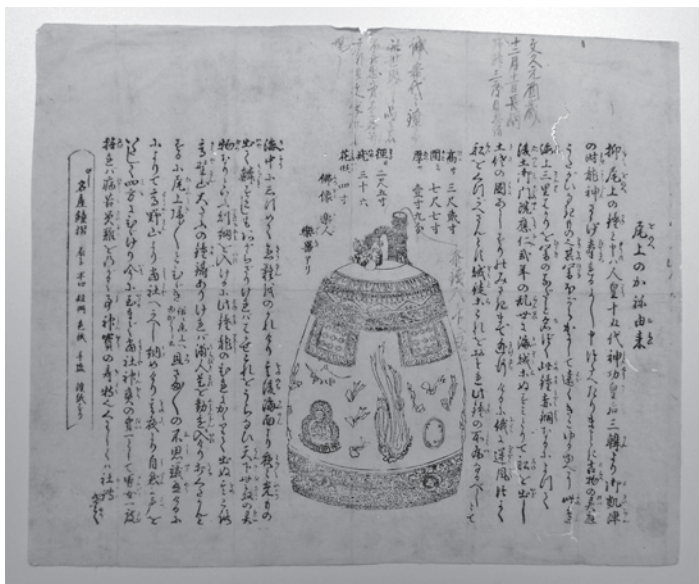
15の右端上部（書込 x）



17の上端部



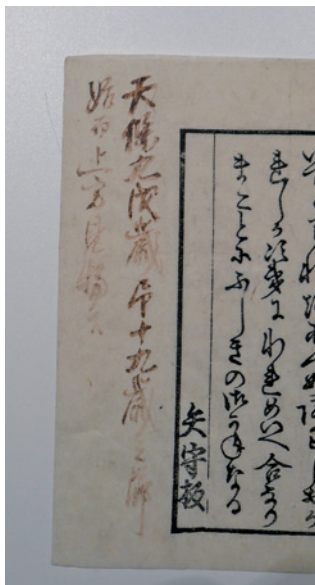
19 三井寺鐘由来



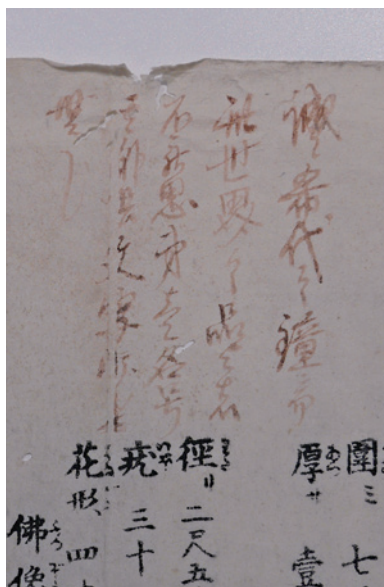
40 尾上のかね由来



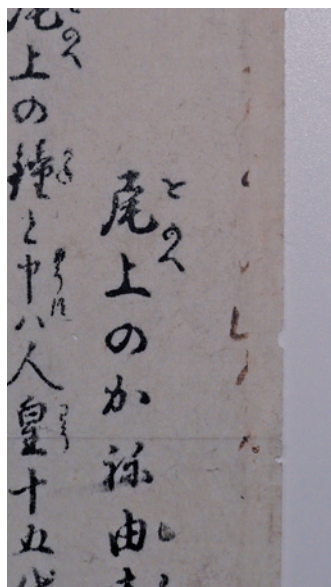
40の中央部（書込z）



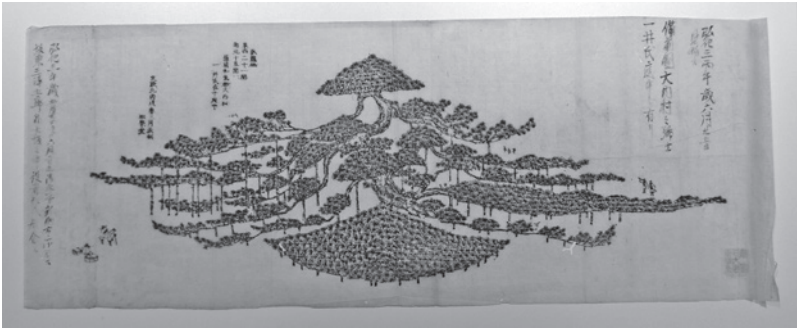
19の左端部



40の上端中央部（書込y）



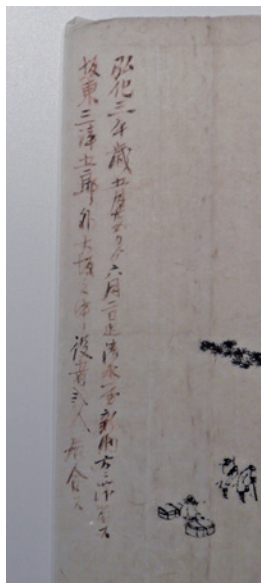
40の右端中央部



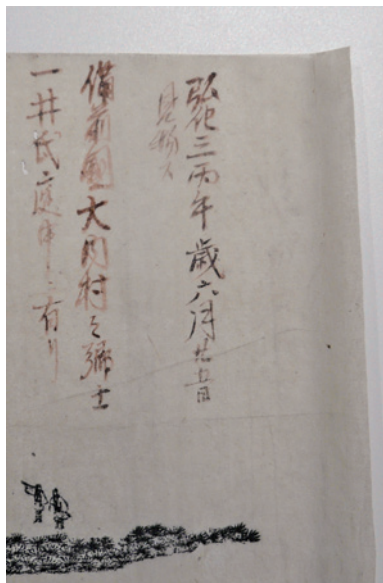
49 [臥龍松図]



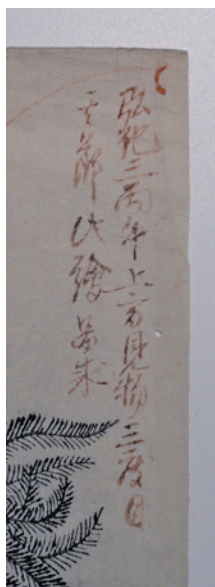
57 [攝泉塚廣普山妙國寺蘇鉄図]



49 の左端 (書込 z)



49 の右端上部 (書込 x y)



57 の右端上部

